

改修工事特記仕様書

I. 工事概要

Table with 2 columns: 項目 (Item) and 内容 (Content). Includes 1. 工事場所 (神奈川県横浜市三春町2丁目1番地), 2. 敷地面積 (44,285.52㎡), 3. 工事種目 (電気棟 鉄筋コンクリート造 地上2階), 4. 工事範囲 (建築改修工事).

II. 建築改修工事仕様

- (1) 図面及び本特記仕様書に記載されていない事項は、国土交通省大臣官房官庁室建設部制定の「公共建築改修工事標準仕様書(建築工事編)令和4年版」...
(2) 電気設備工事及び機械設備工事を本工事に含む場合は、電気設備工事及び機械設備工事はそれぞれの特記仕様書を適用する...
(3) 本特記仕様書の表記
1) 項目は、○ 印の付いたものを適用する。
2) 特記事項は、○ 印の付いたものを適用する。
3) 特記事項に記載の [] 内表示番号は、改修標準仕様書の当該項目、当該図又は当該表を示す。

Chapter Table with 3 columns: 章 (Chapter), 項目 (Item), 特記事項 (Special Notes). Includes ① 各章共通事項, ② 仮設工事, ③ 防水改修工事.

Table with 3 columns: 項目 (Item), 特記事項 (Special Notes), ② 仮設工事. Includes items like ① 工事実施情報システム, ① 工事の記録等, ① 電気保安技術者, ① 発生材の処理等, ① 石綿含有建材の調査, ① 技能士, ① 仮設間仕切り, ① 仮設養生, ① 仮設排水.

Table with 3 columns: 項目 (Item), 特記事項 (Special Notes), ③ 防水改修工事. Includes items like ① 騒音・粉じん等の対策, ① 足場等, ① 既存部分の養生, ① 仮設間仕切り, ① 仮設養生, ① 仮設排水, ① 施工数量調査, ① 降雨等に対する養生方法, ① 既存防水層の処理, ① 化学物質の濃度測定, ① 完成時の提出図書, ① アスファルト防水.

Table with 3 columns: 項目 (Item), 特記事項 (Special Notes), ③ 防水改修工事. Includes items like 改修アスファルトルーフィングシートの種類及び厚さ, 部分粘着層付改修アスファルトルーフィングシートの種類及び厚さ, 平面の保護コンクリートの厚さ, 立上りの押え金物の材質及び形状寸法, 屋根露出防水(既存), 改修アスファルトルーフィングシートの種類及び厚さ, 部分粘着層付改修アスファルトルーフィングシートの種類及び厚さ, 絶縁断熱工法のルーフトレンドリ及び立上り部周辺の断熱材の張りじまい位置, 絶縁工法及び絶縁断熱工法の脱気装置の種類及び設置数量, 設置数量, 屋内防水, 防水層の種類, 保護層, 立上り部の押え金物の材質、形状及び寸法, 屋根排水溝.

横須賀市上下水道局 下町浄化センター電気棟 耐震補強工事 特記仕様書(1) Table with columns for 工名, 図名, 縮尺, 製年月, 課長, 係長, 担当者, 設計者. Includes drawing title and project details.

改修工法	新設工種	施工箇所	断熱材	仕上塗料		高日射反射率防水	備考
				種類	使用量		
改質アスファルトシート防水	AS-T1	M4S	-	改質アスファルトシート製造所の仕様	改質アスファルトシート製造所の仕様	適用する	-
	AS-T2						
	AS-J2						
	AS-T3						
改質アスファルトシート防水	AS-T4	M4S	-	改質アスファルトシート製造所の仕様	改質アスファルトシート製造所の仕様	適用する	-
	AS-J1						
	AS-T3						
	AS-T4						
改質アスファルトシート防水	AS-J1	POAS	-	改質アスファルトシート製造所の仕様	改質アスファルトシート製造所の仕様	適用する	-
	AS-T4						
	AS-J1						
	AS-J3						
改質アスファルトシート防水	ASI-T1	M4SI	-	改質アスファルトシート製造所の仕様	改質アスファルトシート製造所の仕様	適用する	-
	ASI-J1						
改質アスファルトシート防水	ASI-J1	M4SI	-	改質アスファルトシート製造所の仕様	改質アスファルトシート製造所の仕様	適用する	-
	ASI-J1						
改質アスファルトシート防水	ASI-J1	POASI	-	改質アスファルトシート製造所の仕様	改質アスファルトシート製造所の仕様	適用する	-
	ASI-J1						

改質アスファルトシートの種類及び厚さ
※改修標準仕様書表3.4.1から表3.4.3による
JIS A 6013に基づく種類及び厚さ
用途による区分
材料構成による区分 ※R種
厚さ ()mm以上

粘着層付改質アスファルトシートの種類及び厚さ
※改修標準仕様書表3.4.1から表3.4.3による
JIS A 6013に基づく種類及び厚さ
用途による区分
材料構成による区分 ※R種
厚さ ()mm以上

部分粘着層付改質アスファルトシートの種類及び厚さ
※改修標準仕様書表3.4.1から表3.4.3による
JIS A 6013に基づく種類及び厚さ
用途による区分
材料構成による区分 ※R種
厚さ ()mm以上

立上り部の押え金物の材質、形状及び寸法
アルミニウム製 L=30×15×2.0(mm)程度

絶縁工法及び絶縁断熱工法の脱気装置の種類及び設置数量
種類 ※改質アスファルトシートの製造所の指定
設置数量 ※改質アスファルトシートの製造所の指定
(個)

絶縁断熱工法の防湿用シート
・設置する
・設置しない

改修工法	新設工種	施工箇所	仕上塗料		高日射反射率防水	備考
			種類	使用量		
改質アスファルトシート防水	S-F1	POS	-	ルーフィングシートの製造所の仕様	適用する	脱気装置 ・設ける ・設けない 改修用ドリル ・設ける ・設けない
	S-F2					
	S-M1					
	S-M2					
改質アスファルトシート防水	S-F1	S4S	-	ルーフィングシートの製造所の仕様	適用する	脱気装置 ・設ける ・設けない
	S-F2					
	S-M1					
	S-M2					
改質アスファルトシート防水	S-M1	M4S	-	ルーフィングシートの製造所の仕様	適用する	脱気装置 ・設ける ・設けない
	S-M2					
	S-F1					
	S-F2					
改質アスファルトシート防水	S-F1	POS1	-	ルーフィングシートの製造所の仕様	適用する	脱気装置 ・設ける ・設けない 改修用ドリル ・設ける ・設けない
	S-F2					
	S-S1					
	S-S1					
改質アスファルトシート防水	SI-M1	M4SI	-	ルーフィングシートの製造所の仕様	適用する	-
	SI-M2					

改質アスファルトシートの種類及び厚さ
※改修標準仕様書表3.4.1から表3.4.3による
JIS A 6013に基づく種類及び厚さ
用途による区分
材料構成による区分 ※R種
厚さ ()mm以上

粘着層付改質アスファルトシートの種類及び厚さ
※改修標準仕様書表3.4.1から表3.4.3による
JIS A 6013に基づく種類及び厚さ
用途による区分
材料構成による区分 ※R種
厚さ ()mm以上

部分粘着層付改質アスファルトシートの種類及び厚さ
※改修標準仕様書表3.4.1から表3.4.3による
JIS A 6013に基づく種類及び厚さ
用途による区分
材料構成による区分 ※R種
厚さ ()mm以上

立上り部の押え金物の材質、形状及び寸法
アルミニウム製 L=30×15×2.0(mm)程度

絶縁工法及び絶縁断熱工法の脱気装置の種類及び設置数量
種類 ※改質アスファルトシートの製造所の指定
設置数量 ※改質アスファルトシートの製造所の指定
(個)

絶縁断熱工法の防湿用シート
・設置する
・設置しない

改修工法	新設工種	施工箇所	仕上塗料		高日射反射率防水	備考
			種類	使用量		
改質アスファルトシート防水	X-1	PDX	-	主材料の製造所の仕様	適用する	脱気装置 ・設ける ・設けない 改修用ドリル ・設ける ・設けない
	X-2					
	X-1H					
	X-2H					
改質アスファルトシート防水	X-1	L4X	-	主材料の製造所の仕様	適用する	脱気装置 ・設ける ・設けない
	X-2					
	X-1H					
	X-2H					

改質アスファルトシートの種類及び厚さ
※改修標準仕様書表3.4.1から表3.4.3による
JIS A 6013に基づく種類及び厚さ
用途による区分
材料構成による区分 ※R種
厚さ ()mm以上

粘着層付改質アスファルトシートの種類及び厚さ
※改修標準仕様書表3.4.1から表3.4.3による
JIS A 6013に基づく種類及び厚さ
用途による区分
材料構成による区分 ※R種
厚さ ()mm以上

部分粘着層付改質アスファルトシートの種類及び厚さ
※改修標準仕様書表3.4.1から表3.4.3による
JIS A 6013に基づく種類及び厚さ
用途による区分
材料構成による区分 ※R種
厚さ ()mm以上

立上り部の押え金物の材質、形状及び寸法
アルミニウム製 L=30×15×2.0(mm)程度

絶縁工法及び絶縁断熱工法の脱気装置の種類及び設置数量
種類 ※改質アスファルトシートの製造所の指定
設置数量 ※改質アスファルトシートの製造所の指定
(個)

絶縁断熱工法の防湿用シート
・設置する
・設置しない

改修工法	新設工種	施工箇所	仕上塗料		高日射反射率防水	備考
			種類	使用量		
改質アスファルトシート防水	P1Y	-	-	主材料の製造所の仕様による	適用する	脱気装置 ・設ける ・設けない
	P2Y					
	P1Y					
	P2Y					

改質アスファルトシートの種類及び厚さ
※改修標準仕様書表3.4.1から表3.4.3による
JIS A 6013に基づく種類及び厚さ
用途による区分
材料構成による区分 ※R種
厚さ ()mm以上

粘着層付改質アスファルトシートの種類及び厚さ
※改修標準仕様書表3.4.1から表3.4.3による
JIS A 6013に基づく種類及び厚さ
用途による区分
材料構成による区分 ※R種
厚さ ()mm以上

部分粘着層付改質アスファルトシートの種類及び厚さ
※改修標準仕様書表3.4.1から表3.4.3による
JIS A 6013に基づく種類及び厚さ
用途による区分
材料構成による区分 ※R種
厚さ ()mm以上

立上り部の押え金物の材質、形状及び寸法
アルミニウム製 L=30×15×2.0(mm)程度

絶縁工法及び絶縁断熱工法の脱気装置の種類及び設置数量
種類 ※改質アスファルトシートの製造所の指定
設置数量 ※改質アスファルトシートの製造所の指定
(個)

絶縁断熱工法の防湿用シート
・設置する
・設置しない

横須賀市上下水道局

**下町浄化センター電気棟
耐震補強工事**

特記仕様書(2)

工 事 名 称	下町浄化センター電気棟 耐震補強工事		
図 面 名 称	特記仕様書(2)		
縮 尺	-	図 面 番 号	A-2
製 作 年 月	令和 5年 10月	原 図 サ イ ズ	A3
課 長	係 長 等	担 当 者	設 計 者

4-3 外壁改修工事 タイル張り仕上げ外壁改修	充填工法用材料 [4.3.5]	<p>エポキシ樹脂モルタル ポリマーセメントモルタル ポリマーセメントスラリー</p> <table border="1"> <tr> <th>広がり速度 (cm/s)</th> <th>長さ変化率 (収縮) (%)</th> <th>引張接着性 (材齢28日) (N/mm)</th> <th>曲げ性能 (材齢28日) (N/mm)</th> <th>吸水性 (72時間) (%)</th> <th>耐久性 (劣化曲げ強さ) (N/mm)</th> </tr> <tr> <td>3以上</td> <td>3以下</td> <td>0.5以上</td> <td>5.0以上</td> <td>15以下</td> <td>5.0以上</td> </tr> </table> <p>保水係数 0.35~0.55 粘弾係数 0.50~1.00</p> <p>モルタル塗替え工法用材料 [4.3.5]</p> <p>・現場調合材料 (セメントは改修特記仕様書8-2 コンクリート工事による) ・既調合材料 () 既製目地材 ・使用する (形状・図示による) 仕上げ厚又は全塗厚が25mmを超える場合の措置 ※図示による</p>	広がり速度 (cm/s)	長さ変化率 (収縮) (%)	引張接着性 (材齢28日) (N/mm)	曲げ性能 (材齢28日) (N/mm)	吸水性 (72時間) (%)	耐久性 (劣化曲げ強さ) (N/mm)	3以上	3以下	0.5以上	5.0以上	15以下	5.0以上																																																																																													
	広がり速度 (cm/s)	長さ変化率 (収縮) (%)	引張接着性 (材齢28日) (N/mm)	曲げ性能 (材齢28日) (N/mm)	吸水性 (72時間) (%)	耐久性 (劣化曲げ強さ) (N/mm)																																																																																																					
3以上	3以下	0.5以上	5.0以上	15以下	5.0以上																																																																																																						
タイルの形状、寸法等 [4.4.5]	<p>タイルの形状、寸法等 [4.4.5]</p> <table border="1"> <tr> <th>施工箇所</th> <th>形状/寸法 (mm)</th> <th>再生材料の適用</th> <th>吸水率による区分</th> <th>うわすり</th> <th>役物</th> <th>色</th> <th>耐凍害性</th> <th>耐凍融性</th> <th>備考</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td>I類 II類 III類</td> <td>あり/なし</td> <td>あり/なし</td> <td></td> <td>あり/なし</td> <td>あり/なし</td> <td></td> </tr> </table> <p>見本焼き ・行う (施工箇所:) ・行わない [4.4.8]</p> <p>試験張り ・行う (範囲、仕様等は図示による) ・行わない [4.4.8]</p> <p>・樹脂注入工法 [4.1.4][4.4.5, 6]</p> <table border="1"> <tr> <th>工法の種類</th> <th>ひび割れ幅 (mm)</th> <th>注入間隔 (mm)</th> <th>注入量 (mL/m)</th> </tr> <tr> <td>※自動式高圧エポキシ樹脂注入工法</td> <td>0.2以上~1.0未満</td> <td>※200~300</td> <td>130</td> </tr> <tr> <td>・手動式エポキシ樹脂注入工法</td> <td>0.2以上~0.3未満</td> <td>50~100</td> <td>40</td> </tr> <tr> <td>・機械式エポキシ樹脂注入工法</td> <td>0.3以上~0.5未満</td> <td>100~200</td> <td>70</td> </tr> <tr> <td>・手動式エポキシ樹脂注入工法</td> <td>0.5以上~1.0未満</td> <td>150~250</td> <td>130</td> </tr> </table> <p>・タイル部分張替え工法 [4.4.5]</p> <p>接着剤の種類 ・ポリマーセメントモルタル ・JIS A 5557に基づく一液反応硬化型硬化シリコン樹脂系</p> <p>・タイル張替え工法 [4.4.5]</p> <p>張替え用材料 ・接着剤 JIS A 5557に基づく一液反応硬化型硬化シリコン樹脂系 ・張付けモルタル (・現場調合材料、既調合モルタル) 伸縮調整目地及びひび割れ誘発目地の位置 ※改修標準仕様書表4.4.2による ・図示による</p> <p>外装タイル張り下地等の下地モルタル及び下地調整剤塗りの接着剤試験 ・行う ・行わない [4.4.8]</p> <p>・セメントモルタルによるタイル (セラミックタイル) 張り 下地モルタル塗りをを行うコンクリート素地面の処理 ・目荒し工法 (改修標準仕様書4.3.10(3)による) [4.4.8]</p> <p>タイル張りの工法 [4.4.8]</p> <p>外装タイル ・密着張り ・改良圧着張り ・ユニットタイル ・マスク張り ・モザイクタイル張り</p> <p>・有機系接着剤によるタイル (セラミックタイル) 張り モルタル塗りをを行うコンクリート素地面の処理 ・目荒し工法 (改修標準仕様書4.3.10(3)による) [4.4.8]</p> <p>シーリング材の種類 [4.4.5]</p> <p>打継ぎ目地、ひび割れ誘発目地 ※ポリウレタン系</p> <p>伸縮調整目地その他の目地 ※変成シリコン系</p>	施工箇所	形状/寸法 (mm)	再生材料の適用	吸水率による区分	うわすり	役物	色	耐凍害性	耐凍融性	備考				I類 II類 III類	あり/なし	あり/なし		あり/なし	あり/なし		工法の種類	ひび割れ幅 (mm)	注入間隔 (mm)	注入量 (mL/m)	※自動式高圧エポキシ樹脂注入工法	0.2以上~1.0未満	※200~300	130	・手動式エポキシ樹脂注入工法	0.2以上~0.3未満	50~100	40	・機械式エポキシ樹脂注入工法	0.3以上~0.5未満	100~200	70	・手動式エポキシ樹脂注入工法	0.5以上~1.0未満	150~250	130																																																																		
施工箇所	形状/寸法 (mm)	再生材料の適用	吸水率による区分	うわすり	役物	色	耐凍害性	耐凍融性	備考																																																																																																		
			I類 II類 III類	あり/なし	あり/なし		あり/なし	あり/なし																																																																																																			
工法の種類	ひび割れ幅 (mm)	注入間隔 (mm)	注入量 (mL/m)																																																																																																								
※自動式高圧エポキシ樹脂注入工法	0.2以上~1.0未満	※200~300	130																																																																																																								
・手動式エポキシ樹脂注入工法	0.2以上~0.3未満	50~100	40																																																																																																								
・機械式エポキシ樹脂注入工法	0.3以上~0.5未満	100~200	70																																																																																																								
・手動式エポキシ樹脂注入工法	0.5以上~1.0未満	150~250	130																																																																																																								
欠損部改修工法	<p>・タイル部分張替え工法 [4.4.5]</p> <p>接着剤の種類 ・ポリマーセメントモルタル ・JIS A 5557に基づく一液反応硬化型硬化シリコン樹脂系</p> <p>・タイル張替え工法 [4.4.5]</p> <p>張替え用材料 ・接着剤 JIS A 5557に基づく一液反応硬化型硬化シリコン樹脂系 ・張付けモルタル (・現場調合材料、既調合モルタル) 伸縮調整目地及びひび割れ誘発目地の位置 ※改修標準仕様書表4.4.2による ・図示による</p> <p>外装タイル張り下地等の下地モルタル及び下地調整剤塗りの接着剤試験 ・行う ・行わない [4.4.8]</p> <p>・セメントモルタルによるタイル (セラミックタイル) 張り 下地モルタル塗りをを行うコンクリート素地面の処理 ・目荒し工法 (改修標準仕様書4.3.10(3)による) [4.4.8]</p> <p>タイル張りの工法 [4.4.8]</p> <p>外装タイル ・密着張り ・改良圧着張り ・ユニットタイル ・マスク張り ・モザイクタイル張り</p> <p>・有機系接着剤によるタイル (セラミックタイル) 張り モルタル塗りをを行うコンクリート素地面の処理 ・目荒し工法 (改修標準仕様書4.3.10(3)による) [4.4.8]</p> <p>シーリング材の種類 [4.4.5]</p> <p>打継ぎ目地、ひび割れ誘発目地 ※ポリウレタン系</p> <p>伸縮調整目地その他の目地 ※変成シリコン系</p>																																																																																																										
浮き部改修工法	<p>[4.1.4] [4.4.5.9~15]</p> <table border="1"> <tr> <th rowspan="2">工法の種類</th> <th colspan="2">アンカーの本数 (本/m)</th> <th colspan="2">注入口の箇所数 (箇所/m)</th> <th rowspan="2">注入量 (mL/箇所)</th> </tr> <tr> <th>一般部</th> <th>指定部</th> <th>一般部</th> <th>指定部</th> </tr> <tr> <td>・アンカーピンニング</td> <td>※16</td> <td>※25</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>※25</td> </tr> <tr> <td>部分エポキシ樹脂注入工法</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>・アンカーピンニング</td> <td>※13</td> <td>※20</td> <td>※12</td> <td>※20</td> <td>※25</td> </tr> <tr> <td>全面エポキシ樹脂注入工法</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>・アンカーピンニング</td> <td>※13</td> <td>※20</td> <td>※12</td> <td>※20</td> <td>※50</td> </tr> <tr> <td>全面ポリマーセメントスラリー注入工法</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>・注入口付アンカーピンニング</td> <td>※9</td> <td>※16</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>※25</td> </tr> <tr> <td>部分エポキシ樹脂注入工法</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>・注入口付アンカーピンニング</td> <td>※9</td> <td>※16</td> <td>※9</td> <td>※16</td> <td>※25</td> </tr> <tr> <td>全面エポキシ樹脂注入工法</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>・注入口付アンカーピンニング</td> <td>※9</td> <td>※16</td> <td>※9</td> <td>※16</td> <td>※50</td> </tr> <tr> <td>全面ポリマーセメントスラリー注入工法</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>・注入口付アンカーピンニング</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>※25</td> </tr> <tr> <td>エポキシ樹脂注入タイル固定工法</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>・タイル張り替え工法</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>・タイル張り替え工法</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> </table>	工法の種類	アンカーの本数 (本/m)		注入口の箇所数 (箇所/m)		注入量 (mL/箇所)	一般部	指定部	一般部	指定部	・アンカーピンニング	※16	※25	-	-	※25	部分エポキシ樹脂注入工法	-	-	-	-	-	・アンカーピンニング	※13	※20	※12	※20	※25	全面エポキシ樹脂注入工法	-	-	-	-	-	・アンカーピンニング	※13	※20	※12	※20	※50	全面ポリマーセメントスラリー注入工法	-	-	-	-	-	・注入口付アンカーピンニング	※9	※16	-	-	※25	部分エポキシ樹脂注入工法	-	-	-	-	-	・注入口付アンカーピンニング	※9	※16	※9	※16	※25	全面エポキシ樹脂注入工法	-	-	-	-	-	・注入口付アンカーピンニング	※9	※16	※9	※16	※50	全面ポリマーセメントスラリー注入工法	-	-	-	-	-	・注入口付アンカーピンニング	-	-	-	-	※25	エポキシ樹脂注入タイル固定工法	-	-	-	-	-	・タイル張り替え工法	-	-	-	-	-	・タイル張り替え工法	-	-	-	-	-
工法の種類	アンカーの本数 (本/m)		注入口の箇所数 (箇所/m)		注入量 (mL/箇所)																																																																																																						
	一般部	指定部	一般部	指定部																																																																																																							
・アンカーピンニング	※16	※25	-	-	※25																																																																																																						
部分エポキシ樹脂注入工法	-	-	-	-	-																																																																																																						
・アンカーピンニング	※13	※20	※12	※20	※25																																																																																																						
全面エポキシ樹脂注入工法	-	-	-	-	-																																																																																																						
・アンカーピンニング	※13	※20	※12	※20	※50																																																																																																						
全面ポリマーセメントスラリー注入工法	-	-	-	-	-																																																																																																						
・注入口付アンカーピンニング	※9	※16	-	-	※25																																																																																																						
部分エポキシ樹脂注入工法	-	-	-	-	-																																																																																																						
・注入口付アンカーピンニング	※9	※16	※9	※16	※25																																																																																																						
全面エポキシ樹脂注入工法	-	-	-	-	-																																																																																																						
・注入口付アンカーピンニング	※9	※16	※9	※16	※50																																																																																																						
全面ポリマーセメントスラリー注入工法	-	-	-	-	-																																																																																																						
・注入口付アンカーピンニング	-	-	-	-	※25																																																																																																						
エポキシ樹脂注入タイル固定工法	-	-	-	-	-																																																																																																						
・タイル張り替え工法	-	-	-	-	-																																																																																																						
・タイル張り替え工法	-	-	-	-	-																																																																																																						

アンカーピンの材質 [4.4.5]	<p>※ステンレス鋼 (SUS304) 呼び径4mm の丸棒で全ネジ切り加工したもの</p> <p>注入口付アンカーピンの材質 [4.4.5]</p> <p>※ステンレス鋼 (SUS304) 呼び径6mm程度</p> <p>・タイル部分張替え工法 [4.4.5]</p> <p>接着剤の種類 ・ポリマーセメントモルタル ・JIS A 5557に基づく一液反応硬化型硬化シリコン樹脂系</p> <p>・タイル張替え工法 [4.4.5]</p> <p>張替え用材料 ・接着剤 JIS A 5557に基づく一液反応硬化型硬化シリコン樹脂系 ・張付けモルタル (・現場調合材料、既調合モルタル) 伸縮調整目地及びひび割れ誘発目地の位置 ※改修標準仕様書表4.4.2による ・図示による</p> <p>外装タイル張り下地等の下地モルタル及び下地調整剤塗りの接着剤試験 ・行う ・行わない [4.4.8]</p> <p>・セメントモルタルによるタイル (セラミックタイル) 張り 下地モルタル塗りをを行うコンクリート素地面の処理 ・目荒し工法 (改修標準仕様書4.3.10(3)による) [4.4.8]</p> <p>タイル張りの工法 [4.4.8]</p> <p>外装タイル ・密着張り ・改良圧着張り ・ユニットタイル ・マスク張り ・モザイクタイル張り</p> <p>・有機系接着剤によるタイル (セラミックタイル) 張り モルタル塗りをを行うコンクリート素地面の処理 ・目荒し工法 (改修標準仕様書4.3.10(3)による) [4.4.8]</p> <p>シーリング材の種類 [4.4.5]</p> <p>打継ぎ目地、ひび割れ誘発目地 ※ポリウレタン系</p> <p>伸縮調整目地その他の目地 ※変成シリコン系</p>																																								
目地改修工法 [4.1.4][4.4.16]	<p>目地改修工法 [4.1.4][4.4.16]</p> <p>・目地ひび割れ部改修工法 伸縮調整目地改修工法 伸縮調整目地の位置及び寸法 ・図示による</p>																																								
下地調整塗材 [4.5.2]	<p>※下地調整塗材 [4.5.2]</p> <p>○ポリマーセメントモルタル</p> <p>新規仕上塗材の種類 [4.1.5][4.5.2][表4.5.1]</p> <table border="1"> <tr> <th>種類 (呼び名)</th> <th>仕上げの形状</th> <th>工法</th> <th>防火材料</th> </tr> <tr> <td>・薄付け仕上塗材</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>・厚付け仕上塗材</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>・複層仕上塗材</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>・可とう形改修用仕上塗材</p> <table border="1"> <tr> <th>種類 (呼び名)</th> <th>仕上げの形状</th> <th>工法</th> <th>上塗材の種類</th> <th>耐候性</th> <th>防火材料</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td>樹脂 ※779系</td> <td>※耐候形 3種</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td>外装 ※つやあり・つやなし</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td>溶媒 ※水系</td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	種類 (呼び名)	仕上げの形状	工法	防火材料	・薄付け仕上塗材				・厚付け仕上塗材				・複層仕上塗材				種類 (呼び名)	仕上げの形状	工法	上塗材の種類	耐候性	防火材料				樹脂 ※779系	※耐候形 3種					外装 ※つやあり・つやなし						溶媒 ※水系		
種類 (呼び名)	仕上げの形状	工法	防火材料																																						
・薄付け仕上塗材																																									
・厚付け仕上塗材																																									
・複層仕上塗材																																									
種類 (呼び名)	仕上げの形状	工法	上塗材の種類	耐候性	防火材料																																				
			樹脂 ※779系	※耐候形 3種																																					
			外装 ※つやあり・つやなし																																						
			溶媒 ※水系																																						

マスチック塗材塗り [4.1.5] [4.6.2] [表4.6.1]	<p>種類 ・A種 ・B種</p> <p>仕上げの形状 [4.1.5] [4.7.2.3] [表4.7.1]</p> <p>○ゆず肌状</p> <p>工法 [表4.7.1]</p> <p>○ローラー塗り</p> <p>仕上塗材の耐候性 [4.7.2]</p> <p>○1種</p> <p>下地準拠樹脂材の適用 [4.7.3]</p> <p>・適用する ○適用しない</p> <p>コンクリート面のひび割れ部及び欠損部の処理は、改修特記仕様書4章 外装改修工事 (コンクリート打ち放し仕上げ外装改修) による。 モルタル面のひび割れ部、欠損部及び浮き部の処理は、改修特記仕様書4章 外装改修工事 (モルタル塗り仕上げ外装改修) による。</p> <p>吹付け工法の仕様材の種類 [表4.7.1]</p> <p>○アクリルゴム系 ○所要量 2.0 (kg/m²) 以上</p> <p>外装仕上塗材の種類 [表4.7.1]</p> <p>○シリコン系 ○所要量 0.25 (kg/m²) 以上</p>																																
5 建具改修工事 [5.1.3]	<p>5 建具改修工事 [5.1.3]</p> <table border="1"> <tr> <th>建具の種類</th> <th>かぶせ工法</th> <th>撤去工法</th> <th>適用箇所</th> </tr> <tr> <td>・アルミニウム製建具</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>・建具表による</td> </tr> <tr> <td>・樹脂製建具</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>・建具表による</td> </tr> <tr> <td>・鋼製建具</td> <td>・外部</td> <td>-</td> <td>・建具表による</td> </tr> <tr> <td></td> <td>・内部</td> <td>-</td> <td>・建具表による</td> </tr> <tr> <td>・鋼製建具</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>・建具表による</td> </tr> <tr> <td>・ステンレス製建具</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>・建具表による</td> </tr> <tr> <td>・木製建具</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>・建具表による</td> </tr> </table> <p>新規に建具を設ける場合 壁部分の開口の開け方 ※図示による</p> <p>新規建具周囲の補修工法及び範囲 ※図示による</p> <p>・指定する 適用箇所 (・建具表による) [5.1.4]</p> <p>・指定しない 防火戸の自動閉鎖機構及び防火戸とヒューズ装置、熱感知器又は煙感知器との連動 ・連動させる (・建具表による) ・連動させない</p> <p>見本の製作等 [5.1.5]</p> <p>建具見本の製作 ・行う (建具符号:) ・行わない 特殊な建具の仮組 ・行う (建具符号:) ・行わない</p> <p>防火建物部品 [5.1.7]</p> <p>・適用する (・建具表による) ・適用しない</p> <p>アルミニウム製建具 [5.2.2]</p> <p>性能値等 耐風圧性の等級 () (建具符号・建具表による) 気密性の等級 () (建具符号・建具表による) 水密性の等級 () (建具符号・建具表による) 外部に面する建具の種類 ・A種 (建具符号・建具表による) ・B種 (建具符号・建具表による) ・C種 (建具符号・建具表による)</p> <p>枠の見込み寸法 (・建具表による) 防音ドア・防音サッシ 遮音性の等級 () (建具符号・建具表による) 断熱ドア・断熱サッシ 断熱性の等級 () (建具符号・建具表による)</p> <p>材料 [5.2.3]</p> <p>ステンレス鋼板 ※SUS304、SUS430J1L、又はSUS443J1</p> <p>ステンレス製のくつずりの仕上げ ※HL</p> <p>形状及び仕上げ 表面処理 外部に面する建具 種類 ・BB-1 ・BB-2 (改修標準仕様書表5.2.2) 着色 ・標準色 ・特注色</p> <p>窓内の建具 種類 ・BC-1 ・BC-2 (改修標準仕様書表5.2.2) 着色 ・標準色 ・特注色</p> <p>結露水の処理方法 ・水野め式 ・排水式</p> <p>工法 [5.2.5]</p> <p>水切り板、ぜん板 ※図示による</p>	建具の種類	かぶせ工法	撤去工法	適用箇所	・アルミニウム製建具	-	-	・建具表による	・樹脂製建具	-	-	・建具表による	・鋼製建具	・外部	-	・建具表による		・内部	-	・建具表による	・鋼製建具	-	-	・建具表による	・ステンレス製建具	-	-	・建具表による	・木製建具	-	-	・建具表による
建具の種類	かぶせ工法	撤去工法	適用箇所																														
・アルミニウム製建具	-	-	・建具表による																														
・樹脂製建具	-	-	・建具表による																														
・鋼製建具	・外部	-	・建具表による																														
	・内部	-	・建具表による																														
・鋼製建具	-	-	・建具表による																														
・ステンレス製建具	-	-	・建具表による																														
・木製建具	-	-	・建具表による																														

網戸等 [5.2.3, 5.3.3]	<p>網戸等 [5.2.3, 5.3.3]</p> <table border="1"> <tr> <th>種類</th> <th>材質</th> <th>寸法</th> <th>網目</th> </tr> <tr> <td>・防虫網</td> <td>※合成樹脂製 ・ガラス繊維入り合成樹脂製 ・ステンレス (SUS316) 製</td> <td>※0.25mm以上</td> <td>※16~18メッシュ</td> </tr> <tr> <td>・防鳥網</td> <td>ステンレス (SUS304) 線材</td> <td>1.5mm</td> <td>網目寸法15mm</td> </tr> </table> <p>性能値等 [5.3.2]</p> <p>耐風圧性の等級 () 気密性の等級 () 水密性の等級 () 外部に面する建具の種類 ・A種 (建具符号・建具表による) ・B種 (建具符号・建具表による) ・C種 (建具符号・建具表による)</p> <p>防音ドア・防音サッシ 遮音性の等級 (・T-1 ・T-2) (建具符号・建具表による)</p> <p>断熱ドア・断熱サッシ 断熱性の等級 (・H-4 ・H-5 ・H-6) (建具符号・建具表による)</p> <p>外部に面する建具の日射取得性の等級 枠の見込み寸法 ・建具表による</p> <p>材料 [5.3.3]</p> <p>ガラス ※複層ガラス</p> <p>ステンレス製のくつずりの仕上げ ※HL</p> <p>形状及び仕上げ 表面色 ・標準色 ・特注色</p> <p>工法 [5.3.5]</p> <p>水切り板、ぜん板 ※図示による</p> <p>性能値等 [5.4.2]</p> <p>簡易気密型ドアセット ・適用する (建具符号・建具表による) ・適用しない</p> <p>外部に面する建具の耐風圧性 耐風圧性の等級 () (建具符号・建具表による)</p> <p>防音ドア・防音サッシ 遮音性の等級 () (建具符号・建具表による)</p> <p>断熱ドア・断熱サッシ 断熱性の等級 () (建具符号・建具表による)</p> <p>耐震ドア 屋内変形耐震性の等級 () (建具符号・建具表による)</p> <p>材料 [5.4.3]</p> <p>ステンレス鋼板 ※SUS304、SUS430J1L、又はSUS443J1</p> <p>ステンレス製のくつずりの仕上げ ※HL</p> <p>形状及び仕上げ 鋼板の厚さ ※改修標準仕様書表5.4.2による mm 使用箇所 ()</p> <p>標準型鋼製建具の形式及び寸法 ※建具表による</p>	種類	材質	寸法	網目	・防虫網	※合成樹脂製 ・ガラス繊維入り合成樹脂製 ・ステンレス (SUS316) 製	※0.25mm以上	※16~18メッシュ	・防鳥網	ステンレス (SUS304) 線材	1.5mm	網目寸法15mm
種類	材質	寸法	網目										
・防虫網	※合成樹脂製 ・ガラス繊維入り合成樹脂製 ・ステンレス (SUS316) 製	※0.25mm以上	※16~18メッシュ										
・防鳥網	ステンレス (SUS304) 線材	1.5mm	網目寸法15mm										
<h2>横須賀市上下水道局</h2> <h3>下町浄化センター電気棟 耐震補強工事</h3> <h4>特記仕様書(3)</h4>													
工 事 名 称	下町浄化センター電気棟 耐震補強工事												
図 面 名 称	特記仕様書(3)												
縮 尺	-												
製 年 作 月	令和 5年 10月												
課 長	係長等												
	担当者												
	設計者												
	図 番 号 A-3												
	原 図 尺 寸 A3												

鋼製軽量建具	性能値等 簡易気密型ドアセット ・適用する (建具符号: 建具表による) ・適用しない 防音ドア・防音サッシ 遮音性の等級 () (建具符号: 建具表による) 断熱ドア・断熱サッシ 断熱性の等級 () (建具符号: 建具表による) 耐震ドア 面内変形追従性の等級 () (建具符号: 建具表による) 材料 鋼板 ・亜鉛めっき鋼板 ・ビニル被覆鋼板 ・カラー鋼板 ・ステンレス鋼板 ステンレス鋼板 ※SUS304、SUS430J1L、又はSUS443J1 召合わせ、緩小口包み板の性質 ※鋼板 ステンレス製のくつぎりの仕上げ ※HL 形状及び仕上げ 鋼板の厚さ ※改修標準仕様書5.5.11による mm 使用箇所 () 標準型鋼製軽量建具の形式及び寸法 ※建具表による	[5.5.2]
ステンレス製建具	性能値等 簡易気密型ドアセット ・適用する (建具符号: 建具表による) ・適用しない 外部に面する建具の耐風圧性 耐風圧性の等級 () (建具符号: 建具表による) 防音ドア・防音サッシ 遮音性の等級 () (建具符号: 建具表による) 断熱ドア・断熱サッシ 断熱性の等級 () (建具符号: 建具表による) 耐震ドア 面内変形追従性の等級 () (建具符号: 建具表による) 材料 ステンレス鋼板 ※SUS304、SUS430J1L、又はSUS443J1 ステンレス製のくつぎりの仕上げ ※HL 形状及び仕上げ 表面仕上げ ※HL ・鏡面仕上げ 工法 ステンレス鋼板の貼付加工 ※普通曲げ ・角出し曲げ	[5.6.2]
木製建具	建具材の加工、組立時の含水率 ※A種 フラッシュ戸 表面材のホルムアルデヒド放散量等 ※改修標準仕様書5.7.2(2)(4)による 表面材の合板の種類 合板の種類 規格等 備考 普通合板 表面の樹種 板面の品質 (※広葉樹1等) 接着の程度 (・1類・2類) 天然木化粧合板 樹種名 () 接着の程度 (・1類・2類) 化粧加工の方法 ※プリント ・ポリエステル化粧合板 ・メラミン化粧合板 接着の程度 (・1類・2類) MF 表面材の厚さ ※表5.7.6による	[5.7.2]

・かまち戸 かまち樹種 () 鏡板樹種 () 見込み寸法 ※36mm 建具表による ふすま 張りの種類 (・I型・II型) 上張り (挿入等の裏面以外) ・裏の子 ・新裏の子又はビニル紙程度 縁仕上げ ・塗り縁 ・生地縁 (素地) ・生地縁 (ウレタンクリヤー塗装) 見込み寸法 ※19.5mm 建具表による 戸ぶすま 表面材の仕上 見込み寸法 ※30mm 建具表による ・紙張り障子 見込み寸法 ※30mm 建具表による 枠、くつぎりの材料 建具表による	[5.7.2~4]
建具用金物 金物の種類及び見え掛りの材質等 ※改修標準仕様書表5.8.1により適用は建具表による 金属製建具に使用する丁番の枚数及び大きさ ※改修標準仕様書表5.8.2による 建具表による 樹脂製建具に使用する丁番の枚数及び大きさ ※改修標準仕様書表5.8.3による 建具表による 木製建具に使用する丁番の枚数及び大きさ ※改修標準仕様書表5.8.4による 建具表による 木製建具に使用する戸車及びレール ※改修標準仕様書表5.8.5による 建具表による 振り玉、レバーハンドル、押板類、クレセントの取付け位置 建具表による	[5.8.2]
扉 マスターキー ・製作する ・製作しない 既存のマスターキーに合わせる その他の鍵の製作本数 ※各室3本1組 (匿名礼付き) 扉箱 ・無し ・有り	[5.8.4]
自動ドア開閉装置 戸の開閉方式 ・建具表による 引き戸用駆動装置 性能値 ※改修標準仕様書表5.9.1による (防鎖・適用する・適用しない) 以下による 種類・開閉方式 () 耐電圧 () 温度上昇 () 耐久性 (サイクル) () 防錆 () 電源 () ・車椅子使用者用便所出入口引き戸用駆動装置 性能値 ※改修標準仕様書表5.9.2による (防鎖・適用する・適用しない) 以下による 耐電圧 () 温度上昇 () 耐久性 (サイクル) () 防錆 () 電源 () 引き戸用検出装置 性能値 ※改修標準仕様書表5.9.3による (防鎖・適用する・適用しない) 以下による 放射線検出装置電磁界耐性 () 耐電圧 () 防錆 () 防滴 () 電源 () 引き戸検出装置の種類は改修標準仕様書表5.9.4により、適用箇所は建具表による タッチスイッチの種類 ・無線式タッチスイッチ ・光線式タッチスイッチ 車椅子使用者用便所スイッチの種類 ・大型押しボタンスイッチ ・非接触スイッチ 凍結防止措置 ・行う ・行わない	[5.9.2]

・自閉式上吊り引戸 装置 性能値等 ※改修標準仕様書表5.10.1 以下による 手動開き力 () 手動閉じ力 () 閉じ速度の調整 () 制動区間 () 開閉繰返し () 耐衝撃性 ()	[5.10.3]
重量シャッター シャッターの種類 ・管理用シャッター ・外壁用防火シャッター ・屋内用防火シャッター ・防塵シャッター 外壁開口部に設ける重量シャッターの耐風圧強度 () Pa 開閉方式の種類 ※電動式 (手動併用) ・手動式 安全装置 電動式シャッターの急降下制動装置、急降下停止装置 設置箇所 (・図示) 電動式シャッターの障害物感知装置 設置箇所 (・図示) 屋内用防火シャッター若しくは防塵シャッターの危害防止装置 (※危害防止装置・既設シャッターに改修により取り付け可能な構造) 設置箇所 (・図示) 管理用シャッターのシャッターケース ・設ける ・設けない スラット及びシャッターケース用鋼板 鋼板の種類 ・JIS G 3302 (溶融亜鉛めっき鋼板) ・JIS G 3312 (塗装溶融亜鉛めっき鋼板) めっきの付着量 ※Z12又はF12	[5.11.2]
軽量シャッター 開閉方式の種類 ※手動式 ・上部電動式 (手動併用) 耐風圧強度 () Pa 安全装置 電動式シャッターの障害物感知装置 設置箇所 (・図示) スラットの材質 ・JIS G 3312 (塗装溶融亜鉛めっき鋼板) めっきの付着量 (※Z06又はF06) ・JIS G 3322 (塗装溶融55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板) めっきの付着量 (※AZ90) スラットの形状 ・インターロッキング形 ・オーバーラッピング形	[5.12.2]
オーバーヘッドドア セクション材料 による区分 ※スチールタイプ ・アルミニウムタイプ ・ファイバーグラスタイプ 耐風圧性 による区分 ・50 ・75 ・100 ・125 開閉方式 による区分 ・バランス式 ・チェーン式 ・電動式 収納形式 による区分 ・スタンダード形 ・ローヘッド形 ・ハイリフト形 ・パーチカル形 ガイドレールの材質 ※溶融亜鉛めっき鋼板 ・ステンレス鋼板 電動式オーバーヘッドドアの障害物感知装置 設置箇所 (・図示) ・設けない (設置箇所・建具表による)	[5.13.2.3]
ガラス フロート板ガラスの品種及び厚さの呼びによる種類 ・建具表による 型板ガラスの厚さによる種類 ・建具表による 網入り板ガラス及び網入り板ガラスの網又は線の形状、板の表面の状態及び厚さの呼びによる種類 ・建具表による 合わせガラス 材料ガラスの種類及び厚さの組合せ並びにガラスの合計厚さ、特性による種類 ・建具表による 強化ガラス 形状による種類、材料板ガラスの種類による名称及び特長による種類 ・建具表による 複層ガラス 板ガラスによる種類、厚さによる種類及び性能による種類 ・建具表による 複層ガラスの種類、厚さの組合せ、複層ガラスの厚さ、断熱性による区分、日射取得性、日射遮蔽性による区分及び乾燥気体の種類 ・建具表による 熱反射ガラス 材料板ガラスの種類、厚さによる種類、日射遮蔽率による区分、耐久性による区分 ・建具表による 倍強度ガラス 材料板ガラスの種類及び厚さによる種類 ・建具表による	[3.7] [5.14.2~4]

ガラスブロック ガラスの留め材及び溝の大きさ [5.14.2] 建具の種類 ガラス留め材 ガラス溝の大きさ(mm) アルミニウム製 シーリング材 ※建具の製造所の仕様による ・グレイジングガasket 図示による 鋼製及び鋼製軽量 シーリング材 ※建具の製造所の仕様による 図示による ステンレス製 シーリング材 ※建具の製造所の仕様による 図示による 樹脂製 グレイジングガasket ※建具の製造所の仕様による 図示による	[5.14.2]
壁用金属枠及び補強材・形状 図示による 材質 ※ステンレス鋼(SUS304) 寸法 ※径5.5mm 形状 ※はしご形状裏筋及び単筋 化粧目地モルタルの色 (・白・グレー) シーリングの種類 (・SR-1・PS-1) 金属製化粧カバー 材質 ・ステンレス製 ・アルミニウム製 寸法 図示による 形状 図示による 目地部の力骨の納まり ※ガラスブロック製造所の仕様による 図示による 工法 建築基準法に基づき定まる風圧力に対応した工法 図示による	[5.14.5]
改修範囲 既存開口部の撤去に伴う当該壁の取り合う天井、壁及び床の改修範囲 ※壁厚程度とし、既存仕上げに準じた仕上げを行う ○図示による 天井内の既存壁の撤去に伴う当該壁の取り合う天井の改修範囲 ※壁面より両側 600mm 程度とし、既存仕上げに準じた仕上げを行う ○図示による 既存天井の撤去に伴う取合い部の壁面の改修 ※既存のまま 図示による	[6.1.3]
既存床の撤去及び下地補修 ビニル床シート等の撤去 ※仕上材のみ (接着剤とも) ・下地モルタルとも (・図示による・撤去範囲全て) 合成樹脂塗料の除去工法 ・機械的除去工法 ・目荒し工法 既存のコンクリート又はモルタル面の下地処理に用いるポリマーセメントモルタル及びエポキシ樹脂モルタルは、4層外壁改修工事による。 改修後の床の清掃範囲 ※図示による	[6.2.2]
既存壁の撤去及び下地補修 開口部撤去に伴う他の構造体の補修 ※改修標準仕様書4.4.9によるモルタル塗り (塗り厚25mmを超える場合の設置 ※図示による)	[6.3.2]
施工一般 材料のホルムアルデヒド放散量 ※F☆☆☆☆又は改修標準仕様書6.5.2(1)(b)(9)による	[6.5.2]

横須賀市上下水道局

工 事 名 称	下町浄化センター電気棟 耐震補強工事		
図 面 名 称	特記仕様書(4)		
縮 尺	-	図 面 番 号	A-4
製 年 作 月	令和 5年 10月	原 図 サ イ ズ	A3
課 長	係 長 等	担 当 者	設 計 者

合成樹脂塗床	[6.10.4]	
種別	仕上げの種類	
・厚膜型薄塗材 ・弾性ウレタン樹脂系塗床材	・平滑仕上げ ・防汚仕上げ ・つや消し仕上げ	
・厚膜型薄塗材 エポキシ樹脂系塗床材	・薄膜流しのべ工法 ・平滑仕上げ ・防汚仕上げ	
・薄膜型薄塗材	・平滑仕上げ	
塗床材のホルムアルデヒド放散量 ※F☆☆☆☆	[6.10.2]	
フローリング張り	[6.11.2~6]	
フローリングのホルムアルデヒド放散量等 ※改修標準仕様書6.11.2(2)による	[6.11.2]	
単層フローリング	[6.11.2~5]	
種別	厚さ、幅、長さ	
・フローリング ボード1等	・釘留め工法(根太張り) ※改修標準仕様書6.11.11による	
	・釘留め工法(直張り) ※改修標準仕様書6.11.31による	
	・接着工法 ※改修標準仕様書6.11.51による	
複合フローリング	[6.11.2~5]	
種別	厚さ、幅、長さ	
・複合フローリング ボード1等	・釘留め工法(根太張り) ※改修標準仕様書6.11.21による	
	・釘留め工法(直張り) ※改修標準仕様書6.11.41による	
	・接着工法 ※改修標準仕様書6.11.61による	
接着工法の場合の不陸線と材 合成樹脂発泡シート 現場塗装仕上げ ウレタン樹脂ワニス塗り	[6.11.5]	
種別	[6.12.2]	
・A種 ・B種 ・C種 ・D種(塗床:・KT-I ・KT-II ・KT-III ・KT-K ・KT-N)		
下地の種類	・標準仕様書12.6.1による床組 ・ポリスチレンフォーム床下地(ノンフロン)	
塗床及び塗床はホルムアルデヒド、アセトアルデヒド及びステレンを発生しないか、発散が極めて少ない材料を使用したものとする。 衝撃線と型量(塗床:・C1 ・C2)		
○セッコウボード、 その他のボード及び 合板張り	[6.13.2]	
規格名称	種別	厚さ(mm)等
木質系セメント板	・硬質木毛セメント板 ・中質木毛セメント板 ・普通木毛セメント板 ・硬質木片セメント板 ・普通木片セメント板	・15 ・20 ・25 ・15 ・20 ・25 ・12 ・15 ・18 ・21 ・30
繊維強化セメント板	・けい酸カルシウム板	タイプ2(無石棉)・5 ・8
火山性ガラス質複層板 (VSボード)	・火山性ガラス質複層板	
繊維板	・メディアムデンシティ ファイバーボード(MDF) ・ハードボード (スタンダードボード) ・ハードボード (テンパーボード) ・インシュレーションボード	・3 ・7 ・9 ・12 ・素地ハードボード (・無研磨板・研磨板) ・内装用化粧ハードボード (・無研磨板・研磨板) ・2.5 ・3.5 ・5 ・7 ・素地ハードボード (・無研磨板・研磨板) ・外装用化粧ハードボード (・無研磨板・研磨板) ・2.5 ・3.5 ・5 ・7
パーティクルボード	・単板張りパーティクルボード ・化粧パーティクルボード	・無研磨板・研磨板 ・10 ・12 ・15 ・18 ・単板オーバーレイ ・プラスチックオーバーレイ ・塗装 ・10 ・12
吸音材料	○ロックウール化粧吸音板	○フラットタイプ (○3(不燃)・12(不燃)・ ・凹凸タイプ (・8(不燃)・12(不燃)・)
	・ロックウール吸音ボード1号 ・グラスウール吸音ボード32K	・25 ・25(ガラスクロス包)
セッコウボード製品	○セッコウボード ・不燃積層セッコウボード ・化粧無(地下張用) ・化粧有(トラバーチン模様) ・9.5(不燃) ・シーリングセッコウボード ・強化セッコウボード ・セッコウラスボード	○12.5(不燃)・15(不燃) ○9.5(不燃) ・12.5(不燃) ・12.5(不燃)・15(不燃) ・9.5

セッコウボード製品 (続き)	化粧セッコウボード(木目) ・化粧セッコウボード (トラバーチン)	種別(・柱目 ・板目) 専用下地材有り ・12.5(不燃)幅440mm程度 ・9.5(不燃)										
MDF及びパーティクルボードのホルムアルデヒド放散量 ※F☆☆☆☆	[6.13.2]											
表面への化粧張り等の加工 ※図示による	[6.13.1]											
合板	[6.13.2]											
種別	規格	防虫処理										
・普通合板	表板の樹種名 板面の品質 厚さ ※図示による (mm)	・行う ・行わない										
・天然木化粧合板	化粧板の樹種名 厚さ ※図示による (mm)	・行う ・行わない										
・特殊加工化粧合板	化粧加工の方法 ・オーバーレイ ・プリント ・塗装 表面性能 () 厚さ ※図示による (mm)	・行う ・行わない										
合板のホルムアルデヒド放散量 ※改修標準仕様書6.13.2(3)(4)(a)~(d)のいずれか	[6.13.2]											
接着剤のホルムアルデヒド放散量 ※F☆☆☆☆	[6.13.2]											
天井のボード類(ロックウール吸音板を除く)の重ね張りを行う場合 ※図示による	[6.13.3]											
合板類の張付け ・A種 ・B種	[6.13.3]											
セッコウボードの目地工法等 目地工法の種類 ※仕上げによる 突付け工法及び目直し工法のエッジの種類 ・ペベルエッジ ○スクエアエッジ	[6.13.3]											
ホルムアルデヒド放散量 ※F☆☆☆☆	[6.14.2]											
施工箇所	壁紙の種類	防火性能	備考									
	紙 繊維 塩化ビニル 珪藻土 無機質 その他	・不燃・準不燃・難燃 ・不燃・準不燃・難燃 ・不燃・準不燃・難燃 ・不燃・準不燃・難燃										
モルタル及びプラスター面の素地ごしらえの種類 ※B種 ・A種	[6.14.3]											
コンクリート面の素地ごしらえの種類 ※B種 ・A種	[6.14.3]											
セッコウボード面及びその他のボード面の素地ごしらえの種類 ※B種 ・A種	[6.14.3]											
モルタル	[6.15.3、5、6]											
現場調査材料 ○既設合板材料 既設目地材 ○既設釘	[6.15.3]											
施工箇所() 形状(※図示による)	[6.15.5]											
壁面の仕上げ厚又は全塗り厚が25mmを超える場合の地下処理	[6.15.5]											
床の目地 ・設ける 目地割り ※2m程度(最大目地間隔 ※3m程度) 目地の種類 ※押し目地 ・設けない	[6.15.6]											
伸縮目地の位置 床タイル(※縦、横とも4m以内ごと ※図示による) 床タイル以外(※図示による)	[6.16.2]											
見本焼き ・行う(施工箇所:) ○行わない	[6.16.2]											
試験張り ・行う(範囲、仕様等は図示による) ○行わない	[6.16.2]											
○セメントモルタルによるタイル(セラミックタイル)張り タイルの形状、寸法等	[6.16.3]											
施工箇所	形状/寸法再生材料の電圧率による区分	役物	色	耐凍害性	耐凍害性	備考						
洗面、便所	100角	適用	I類 II類 III類 IV類 V類	有	無	標準特注	有	無	有	無	有	無
標準的な曲がりの役物は一体成形とする 既設合モルタル(品質・性能、試験方法は別表による) モルタル下地としたタイル工事に使用する張付け用モルタルとして、セメント、繊維材、 混和剤等を予め工場において所定の割合に配合した材料とする。 既設合目地材(品質・性能、試験方法は別表による)												

○材料	セルフレベリング材 塗り	[6.17.2.3]
○下地調整	下地調整	[7.3.2~7]
○素地ごしらえ	素地ごしらえ	[7.3.2~7]
○養生改修工事	養生改修工事	[7.4.2.3]

○塗装	[7.5.2~7.13.2]				
塗装の種類	塗装面	塗替え	新規		
・合成樹脂調合ペ イント塗り(SOP)	・木部屋外 ・木部屋内	※B種 ※B種	※A種 ※B種		
塗装の種類 ・1種 ・2種	鉄鋼面 亜鉛めっき鋼面(鋼製建具以外)	※B種 ※B種	※B種 ※B種		
・クリヤラッカー塗り(DL)	鉄鋼面 上塗り等級()級 亜鉛めっき鋼面 上塗り等級()級	※B種 ※B種	※B種 ※B種		
・アクリル樹脂系非水分散形塗料塗り(MAD)	鉄鋼面 上塗り等級()級	※B種	※B種		
・耐水性塗料塗り (DP)	コンクリート面及び押出成形 セメント板面	※B種	※B種		
○つや合成樹脂 エマルションペ イント塗り(EP-G)	コンクリート面等	※B種	※A種 ※B種		
○合成樹脂エマルションペイント塗り(EP)	・屋内の木部 ・屋内の鉄鋼面	※B種	※A種 ※B種		
・合成樹脂エマルション模様塗料塗り(EP-T)	・屋内の亜鉛めっき面	※B種	※A種 ※B種		
・ウレタン樹脂ワニス塗り(DC)	・ステン塗り	※B種	※B種		
・ステン塗り	・ピグメントステン塗り ・オイルステン塗り(OS)	※B種	※B種		
・木材保護塗料塗り(NP)		※B種	※B種		
つや合成樹脂エマルションペイント塗り(コンクリート面、モルタル面、プラスター面、 セッコウボード面、その他ボード面)の塗替えの場合のしめ止め ※改修標準仕様書7.9.1の工程1の下塗りをしめ止めシーラーとする					
合成樹脂エマルションペイント塗りの塗替えの場合のしめ止め ※改修標準仕様書7.10.1の工程1の下塗りをしめ止めシーラーとする					
・高反射率塗料塗り 下地調整(改修標準仕様書7.2.2) ※B種 ・RA種 ・RC種					
工程	規格番号	規格名称	種類	等級	塗付量 (kg/m ²)
	JIS K 5675	高反射率塗料	2種	・1級 ・2級 ・3級	塗料製造所の仕様による
クリヤラッカー塗りA種の工程2の適用 ・適用しない ・適用する(着色剤・溶剤系着色剤・油性染料着色剤)					
ウレタン樹脂ワニス塗りの工程1の適用 ・適用する ・適用しない					
オイルステン塗りの工程等					
改修仕様書(その8)(その9)による					

横須賀市上下水道局

工 事 名 称	下町浄化センター電気棟 耐震補強工事		
図 面 名 称	特記仕様書(6)		
縮 尺	-	図 面 番 号	A-6
製 作 年 月	令和 5年 10月	原 図 大 小	A3
課 長	係 長 等	担 当 者	設 計 者

⑧ 耐震改修工事 共通事項

○ 既存部分の処理等

既存構造物の撤去 [8.21.2][8.22.2][8.23.2][8.24.4][8.25.2][8.26.5][8.27.2]
 撤去範囲
 ○ 図示による
 はつり出した鉄筋及び鉄骨の処置
 ○ 図示による
 既存構造体コンクリート面の目荒らしの程度 [8.21.3][8.22.3][8.23.3] [8.26.6][8.27.3]
 ・ 既存柱、梁面
 ・ 打継ぎ面等の15~30%程度に、平均深さ 2~5mm (最大7mm) 程度の凹凸を全体にわたってつける。
 ○ 既存壁
 ・ 打継ぎ面の10~15%程度に、平均深さ 2~5mm (最大7mm) 程度の凹凸を全体にわたってつける。
 既存杭の撤去等 [8.28.2]
 ・ 撤去範囲及び撤去方法
 ・ 図示による

⑧-1 鉄筋工事

○ 鉄筋 [8.2.1]

種類の記号	呼び径 (mm)	備考
○SD295	D16以下	

鉄線の形状等 [8.2.2]

種類	種類の記号	鉄線の形状、綱目寸法、鉄線の径 (mm)	使用部位
溶接金網			
鉄筋の継手及び定着			

鉄筋の継手の方法等 [8.3.4]

部位	継手方法	呼び径 (mm)
柱、梁の主筋	・ガス圧接 ・機械式継手 ・溶接継手 ・重ね継手	
耐力壁の鉄筋	・重ね継手	
その他の鉄筋	・重ね継手	

継手位置
 ・ 図示による
 柱及び梁の主筋の重ね継手の長さ
 ※改修標準仕様書 表8.3.2による
 ・ 図示による
 耐力壁の重ね継手の長さ
 ※改修標準仕様書8.3.4(3)(7)による
 ・ 図示による
 先組工法等の、柱及び梁の主筋の隣り合う継手位置
 ・ 同一面所とする
 ・ 改修標準仕様書 表8.3.3による
 鉄筋の定着の長さ
 ※改修標準仕様書 表8.3.4による
 ・ 図示による
 折り曲げ定着の方法
 ※改修標準仕様書8.3.4(5)(i)の図8.3.3による
 機械式定着工法
 ・ 適用する
 適用箇所
 ・ 図示による
 種類
 ・ 摩擦圧接接合
 ・ 嵌合グラウト固定
 ・ 嵌合グラウト固定
 ※評定等の評価内容による
 帯筋組立の、継手及び定着
 ・ 図示による

○ 鉄筋のかぶり厚さ及び間隔 [8.3.5]
 (溶接金網を含む)

最小かぶり厚さ
 ※改修標準仕様書8.3.5(1)による
 ・ 図示による
 ○ 構造細目共通図による。
 軽量コンクリートを使用する場合
 ・ あり 適用箇所 ()
 ・ 改修標準仕様書 表8.3.6の最小かぶり厚さに加える厚さ ()mm
 耐久性上不利な箇所がある場合 (塩害等を受けるおそれのある部分等)
 ・ あり 適用箇所 ()
 ・ 最小かぶり厚さに加える厚さ ()mm

超音波探傷試験 [8.3.8]
 ※行う (全圧接部)

○ 機械式継手 [8.4.2]
 適用箇所
 ・ 図示による
 H12報告第1463号に適合する性能
 ・ A級
 性能、種類
 鉄筋相互のあき
 ・ 図示による
 施工完了後の継手部の試験
 ・ 外観試験
 試験対象
 ※全数
 試験項目
 試験方法
 ・ 超音波測定試験
 試験対象
 ・ 全数
 不合格となった場合の措置

○ 溶接継手 [8.4.3]
 適用箇所
 ・ 図示による
 H12報告第1463号に適合する性能
 ・ A級
 溶接継手の性能、工法、鉄筋相互のあき
 ・ 図示による
 施工完了後の継手部の試験
 ・ 外観試験
 試験対象
 ※全数
 試験項目
 試験方法
 不合格となった場合の措置
 ・ 超音波探傷試験
 試験対象
 不合格となった場合の措置

○ 鉄筋の加工及び組立 [8.21.6][8.22.7]
 割製補強筋
 形状
 ○ スパイラル筋
 種類の記号
 呼び径、曲げ直径、ピッチ
 ○ 図示による

○ コンクリートの種類 [8.1.3]

○ コンクリートの気乾単位容積質量による種類及び強度等 [8.1.3][8.1.4][8.2.5][8.9.2]

種類	設計基準強度 (N/mm ²)	スランプ (cm)	気乾単位容積質量 (t/m ³)	適用箇所
○21		18	○2.3程度	地上

○ コンクリートの種類 [8.1.3]
 ※I類 (JIS A 5308への適合を認証されたコンクリート)
 ・ II類 (JIS A 5308に適合したコンクリート)

○ コンクリートの種類 [8.1.3]
 ・ 普通コンクリート [8.1.3][8.1.4][8.2.5][8.9.2]
 設計基準強度 (N/mm²)
 スランプ (cm)
 気乾単位容積質量 (t/m³)
 適用箇所

○ 軽量コンクリート [8.2.5]
 設計基準強度 (N/mm²)
 スランプ (cm)
 気乾単位容積質量 (t/m³)
 種類
 適用箇所

○ セメント [8.2.5]
 種類
 ※普通ポルトランドセメント、高炉セメントA種、シリカセメントA種又はフライアッシュセメントA種
 適用箇所 ()
 ・ 高炉セメントB種
 適用箇所 ()
 ・ フライアッシュセメントB種
 適用箇所 ()

○ 骨材 [8.2.5]
 普通エコセメントを使用するコンクリートの骨材
 ・ 再生骨材Hを使用する
 アルカリシリカ反応性による区分
 ※A・B

○ 混合材料 [8.2.5]
 ○ 混和剤の種類 [8.2.5]
 混和剤の種類
 ※改修標準仕様書 8.2.5(4)(a)による
 ・ 混和材
 混和材の種類
 ※改修標準仕様書 8.2.5(4)(b)による
 改修標準仕様書8.2.5(5)(b)の②以外の混和材量
 ・ 混和剤 ()
 ・ 混和材 ()
 使用方法
 使用量

○ 構造体用モルタル [8.2.6]
 構造体用モルタル

○ 量中コンクリート [8.10.2]
 構造体強度補正係数
 ※6N/mm²

○ 無筋コンクリート [8.11.1]
 コンクリートの種類
 ※普通コンクリート
 設計基準強度
 ※18N/mm²
 スランプ
 ※15cm又は18cm
 適用箇所
 ・ 図示による
 改修標準仕様書 表8.1.1以外のコンクリートを用いる場合 ()

○ 構造体コンクリートの仕上り [8.1.4]
 合板せき板を用いるコンクリートの打放し仕上げ

種別	適用箇所
・A種	
・B種	
・C種	

○ コンクリートの仕上りの平たんさ [8.7.8]
 種別
 ・ a種
 ・ b種
 ・ c種

○ 打増し厚さ [8.7.8]
 ○ 増し厚さ (外部に面する部分に限る)
 ○20mm
 ・ 打増し厚さ (内部に面する部分に限る)
 ・ 10mm
 ・ 20mm

○ 型枠 [8.2.7]
 せき板の材料及び厚さ
 ○ 合板 (※12mm)
 スリーブの種類・規格等
 ・ 図示による

○ 型枠の加工及び組立 [8.7.8]
 シアコネクタをセパレーターとして使用
 使用箇所
 ・ 図示による

○ コンクリートの打込み工法等 [8.21.8][8.23.5]
 コンクリートの打設工法の種類

種別	打設工法	部位
○現場打ちコンクリート	・ 工法指定なし	・ 全ての増設壁 ・ 図示による ()
	○ 流込み工法 8.21.8(1)(7),(2)	○ 全ての増設壁 ・ 図示による () ・ 全ての増設壁 ・ 図示による ()
○ 圧入工法 8.21.8(1)(4),(3)	・ 工法指定なし	・ 全ての柱補強部分 ・ 図示による ()
	・ 流込み工法 8.21.8(1)(7),(2)	・ 全ての柱補強部分 ・ 図示による () ・ 全ての柱補強部分 ・ 図示による ()
○ 圧入工法 8.21.8(1)(4),(3)	・ 工法指定なし	・ 全ての柱補強部分 ・ 図示による ()
	・ 流込み工法 8.21.8(1)(7),(2)	・ 全ての柱補強部分 ・ 図示による () ・ 全ての柱補強部分 ・ 図示による ()

○ 鋼板巻き工法及び帯板巻き付け工法での型枠等 [8.23.6]
 柱頭及び柱脚の隙間の寸法
 補強後の仕上げ
 ・ 図示による

○ 鋼材 [8.2.8]
 鋼材の種類
 ※配置する
 鋼材の種類等 [8.2.8]
 種類の記号
 適用箇所 (主要な部分)
 規格
 ・ JISによる
 ・ JISによる
 ・ JISによる
 ・ JISによる
 ・ JISによる
 形状及び寸法
 ・ 図示による

○ 鉄骨製作工場 [8.1.5]
 鉄骨製作工場の加工能力
 ※建築基準法第68条の25に基づき国土交通大臣から構造方法等の認定を取得している鉄骨製作工場又は同等以上の能力のある工場
 () グレード以上
 ・ 監督職員の承諾する工場

○ 鉄骨製作工場における施工管理技術者 [8.1.6]
 ※配置する

○ 鋼材 [8.2.8]
 種類の記号
 適用箇所 (主要な部分)
 規格
 ・ JISによる
 ・ JISによる
 ・ JISによる
 ・ JISによる
 ・ JISによる

○ 高力ボルト [8.2.9]
 高力ボルトの種類
 ・ トルシア形高力ボルト
 ・ JIS形高力ボルト
 ・ 溶融亜鉛めっき高力ボルト
 ボルトの寸法
 ・ 図示による
 ボルトの締結距離、ボルト間隔、ゲージ等
 ・ 図示による
 摩擦面の性能及び処理
 ・ すべり試験の実施 (試験方法) ・ すべり係数試験 ・ すべり耐力試験

○ 溶融亜鉛めっき高力ボルト [8.13.2]
 ボルトの締結距離、ボルト間隔、ゲージ等
 ・ 図示による
 摩擦面の処理方法
 ・ プラスト処理 (表面粗度50μmRz以上)
 ・ リン酸塩処理

○ 溶接材料 [8.2.10]
 溶接材料
 ・ 改修標準仕様書 8.2.10(1)(2)による

○ スタッド [8.2.11]
 種類等
 呼び名
 呼び長さ (mm)
 適用箇所
 ・ 16
 ・ 19
 ・ 22

○ 仮組 [8.13.10]
 仮組を行う範囲
 ・ 図示による

○ 溶接作業を行う技能資格者の技量付加試験 [8.15.3]
 試験の要領
 ・ 図示による

○ 溶接接合 [8.15.4]
 継手の形状
 ・ 図示による
 ・ 鋼製エンドタブの切断する部分
 切断する箇所
 ・ 図示による
 切断範囲
 ・ 鋼製エンドタブ、裏当て金等は、梁フランジの端から5mm以下を残して直線状に切断する。
 なお、切断線が交差する場合は、交差点をアール状に加工する
 切断面の仕上げ
 ※改修標準仕様書8.15.7(1)(b)(2)による

○ スカラップの形状 [8.15.7]
 ・ 図示による

8-3 鉄骨工事

○ 鋼材 [8.2.8]
 種類の記号
 適用箇所 (主要な部分)
 規格
 ・ JISによる
 ・ JISによる
 ・ JISによる
 ・ JISによる
 ・ JISによる

○ 高力ボルト [8.2.9]
 高力ボルトの種類
 ・ トルシア形高力ボルト
 ・ JIS形高力ボルト
 ・ 溶融亜鉛めっき高力ボルト
 ボルトの寸法
 ・ 図示による
 ボルトの締結距離、ボルト間隔、ゲージ等
 ・ 図示による
 摩擦面の性能及び処理
 ・ すべり試験の実施 (試験方法) ・ すべり係数試験 ・ すべり耐力試験

○ 溶融亜鉛めっき高力ボルト [8.13.2]
 ボルトの締結距離、ボルト間隔、ゲージ等
 ・ 図示による
 摩擦面の処理方法
 ・ プラスト処理 (表面粗度50μmRz以上)
 ・ リン酸塩処理

○ 溶接材料 [8.2.10]
 溶接材料
 ・ 改修標準仕様書 8.2.10(1)(2)による

○ スタッド [8.2.11]
 種類等
 呼び名
 呼び長さ (mm)
 適用箇所
 ・ 16
 ・ 19
 ・ 22

○ 仮組 [8.13.10]
 仮組を行う範囲
 ・ 図示による

○ 溶接作業を行う技能資格者の技量付加試験 [8.15.3]
 試験の要領
 ・ 図示による

○ 溶接接合 [8.15.4]
 継手の形状
 ・ 図示による
 ・ 鋼製エンドタブの切断する部分
 切断する箇所
 ・ 図示による
 切断範囲
 ・ 鋼製エンドタブ、裏当て金等は、梁フランジの端から5mm以下を残して直線状に切断する。
 なお、切断線が交差する場合は、交差点をアール状に加工する
 切断面の仕上げ
 ※改修標準仕様書8.15.7(1)(b)(2)による

○ スカラップの形状 [8.15.7]
 ・ 図示による

横須賀市上下水道局

**下町浄化センター電気棟
耐震補強工事**

特記仕様書(7)

工 事 名 称	下町浄化センター電気棟 耐震補強工事		
図 面 名 称	特記仕様書(7)		
縮 尺	-	図 面 番 号	A-7
製 作 年 月	令和 5年 10月	原 図 尺 寸	A3
課 長	係 長 等	担 当 者	設 計 者

8-4 あと施工アンカー工事	8-6 連続繊維補強工事	8-7 耐震スリット新設工事	8-8 土工事及び地業工事	8-15 砂利地業	8-28.4 補コンクリート地業																								
	8-17.2 耐火被覆材の接着する面の塗装範囲 ・図示による () 耐火被覆材の接着する面以外の塗装範囲 ※改修標準仕様書8.17.2(1)(7)～(9)による ・図示による () 8.17.4 塗料の種類 下記以外の鉄鋼面は、7章「塗装改修工事」による ・鉄骨鉄筋コンクリート造の鋼製スリーブで鉄骨に溶接された主筋の内側の錆止め塗料の種類 ※A種 ・耐火被覆材が接着する面の塗料の種類	8.18.2]～[8.18.8 種類、材料、工法等 <table border="1"> <thead> <tr> <th>種類</th> <th>材料・工法</th> <th>性能(耐火時間)</th> <th>適用箇所(部位・部分)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>耐火材吹付け</td> <td>乾式吹付けロックウール 半乾式吹付けロックウール</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>耐火板張り</td> <td>繊維混入けい酸カルシウム板</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>耐火材巻付け</td> <td>高断熱ロックウール</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>ラス張りモルタル塗り</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>耐火塗料</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	種類	材料・工法	性能(耐火時間)	適用箇所(部位・部分)	耐火材吹付け	乾式吹付けロックウール 半乾式吹付けロックウール			耐火板張り	繊維混入けい酸カルシウム板			耐火材巻付け	高断熱ロックウール			ラス張りモルタル塗り				耐火塗料				8.22.9] プレース設置工事後の仕上げ ・図示による ()	8.25.2] ○耐震スリットの方式、幅及び深さ 方式 ○完全 部分 幅及び深さ ○図示による (S-6) 設置箇所 ○図示による (S-6) 8.25.2] ○耐震スリット充填材の挿入及び周囲補修等	8.2.15][8.28.4] 材料 ・再生クラッシュラン 切込砂利又は切込砕石 砂利厚さ ※60mm 8.2.15][8.28.4] 補コンクリートの厚さ ※50mm コンクリートの種類 ※普通コンクリート 設計基準強度 ※18N/mm ² スランプ ※15cm又は18cm
	種類	材料・工法	性能(耐火時間)	適用箇所(部位・部分)																									
	耐火材吹付け	乾式吹付けロックウール 半乾式吹付けロックウール																											
	耐火板張り	繊維混入けい酸カルシウム板																											
耐火材巻付け	高断熱ロックウール																												
ラス張りモルタル塗り																													
耐火塗料																													
8-17.4 耐火被覆材の接着する面の塗装範囲 ・図示による () 耐火被覆材の接着する面以外の塗装範囲 ※改修標準仕様書8.17.2(1)(7)～(9)による ・図示による () 8.17.4 塗料の種類 下記以外の鉄鋼面は、7章「塗装改修工事」による ・鉄骨鉄筋コンクリート造の鋼製スリーブで鉄骨に溶接された主筋の内側の錆止め塗料の種類 ※A種 ・耐火被覆材が接着する面の塗料の種類	8.24.6] 連続繊維補強材の強度試験 ・引張強度試験 ※JIS A 1191 (コンクリート用連続繊維シートの引張試験方法)による 試験数量 ・図示による () ・付着強度試験 ※JIS A 6909 (建築用仕上塗料)による 試験数量 ・図示による () 8.24.7] 補強工事後の仕上げ ・図示による ()	8.25.2] ○耐震スリット充填材の挿入及び周囲補修等 ・耐火材 使用箇所及び仕様 ・図示による () ・遮音材 使用箇所及び仕様 ・図示による () 撤去部の補修 ※撤去材と同一材で補修	8.28.4] 材料及び工法 ・材料 () ・工法 () ※改修標準仕様書8.28.1による ・A種 適用場所 () ・B種 適用場所 () ・C種 適用場所 () 土質 () 受渡場所 () ・D種 適用場所 () 建設発生土の処理 ※構外搬出適切処理 ・構内指定場所に堆積 ・構内指定場所に敷き均し 8.2.15][8.28.4] 試験及び報告書 試験杭の位置、本数及び寸法並びに施工方法 ・図示による () 杭の載荷試験の方法 ・図示による () 杭の載荷試験報告書の記載事項 ・ () 地盤の載荷試験の方法 ・図示による () 地盤の載荷試験報告書の記載事項 ・ () 杭地業 杭の工法、種類、寸法、施工方法等 ・図示による () 支持層の位置及び土質 (基礎ぐりの先端位置含む) ・図示による () 杭の溶接継手 技能資格者の技量 図示による () 溶接部の確認 図示による () 杭頭の処理 ・処理しない ・処理する 処理方法 (切断ともなる補強方法含む) ・図示による () 支持層への挿入れ長さ ・ () 水平法の位置ずれ ・杭径の1/4かつ100mm以下 ・評定等の評価内容による 記録する施工状況等 ・図示による ()																										
8-17.2 耐火被覆材の接着する面の塗装範囲 ・図示による () 耐火被覆材の接着する面以外の塗装範囲 ※改修標準仕様書8.17.2(1)(7)～(9)による ・図示による () 8.17.4 塗料の種類 下記以外の鉄鋼面は、7章「塗装改修工事」による ・鉄骨鉄筋コンクリート造の鋼製スリーブで鉄骨に溶接された主筋の内側の錆止め塗料の種類 ※A種 ・耐火被覆材が接着する面の塗料の種類	8.24.6] 連続繊維補強材の強度試験 ・引張強度試験 ※JIS A 1191 (コンクリート用連続繊維シートの引張試験方法)による 試験数量 ・図示による () ・付着強度試験 ※JIS A 6909 (建築用仕上塗料)による 試験数量 ・図示による () 8.24.7] 補強工事後の仕上げ ・図示による ()	8.25.2] ○耐震スリット充填材の挿入及び周囲補修等 ・耐火材 使用箇所及び仕様 ・図示による () ・遮音材 使用箇所及び仕様 ・図示による () 撤去部の補修 ※撤去材と同一材で補修	8.28.4] 材料及び工法 ・材料 () ・工法 () ※改修標準仕様書8.28.1による ・A種 適用場所 () ・B種 適用場所 () ・C種 適用場所 () 土質 () 受渡場所 () ・D種 適用場所 () 建設発生土の処理 ※構外搬出適切処理 ・構内指定場所に堆積 ・構内指定場所に敷き均し 8.2.15][8.28.4] 試験及び報告書 試験杭の位置、本数及び寸法並びに施工方法 ・図示による () 杭の載荷試験の方法 ・図示による () 杭の載荷試験報告書の記載事項 ・ () 地盤の載荷試験の方法 ・図示による () 地盤の載荷試験報告書の記載事項 ・ () 杭地業 杭の工法、種類、寸法、施工方法等 ・図示による () 支持層の位置及び土質 (基礎ぐりの先端位置含む) ・図示による () 杭の溶接継手 技能資格者の技量 図示による () 溶接部の確認 図示による () 杭頭の処理 ・処理しない ・処理する 処理方法 (切断ともなる補強方法含む) ・図示による () 支持層への挿入れ長さ ・ () 水平法の位置ずれ ・杭径の1/4かつ100mm以下 ・評定等の評価内容による 記録する施工状況等 ・図示による ()																										
8-17.2 耐火被覆材の接着する面の塗装範囲 ・図示による () 耐火被覆材の接着する面以外の塗装範囲 ※改修標準仕様書8.17.2(1)(7)～(9)による ・図示による () 8.17.4 塗料の種類 下記以外の鉄鋼面は、7章「塗装改修工事」による ・鉄骨鉄筋コンクリート造の鋼製スリーブで鉄骨に溶接された主筋の内側の錆止め塗料の種類 ※A種 ・耐火被覆材が接着する面の塗料の種類	8.24.6] 連続繊維補強材の強度試験 ・引張強度試験 ※JIS A 1191 (コンクリート用連続繊維シートの引張試験方法)による 試験数量 ・図示による () ・付着強度試験 ※JIS A 6909 (建築用仕上塗料)による 試験数量 ・図示による () 8.24.7] 補強工事後の仕上げ ・図示による ()	8.25.2] ○耐震スリット充填材の挿入及び周囲補修等 ・耐火材 使用箇所及び仕様 ・図示による () ・遮音材 使用箇所及び仕様 ・図示による () 撤去部の補修 ※撤去材と同一材で補修	8.28.4] 材料及び工法 ・材料 () ・工法 () ※改修標準仕様書8.28.1による ・A種 適用場所 () ・B種 適用場所 () ・C種 適用場所 () 土質 () 受渡場所 () ・D種 適用場所 () 建設発生土の処理 ※構外搬出適切処理 ・構内指定場所に堆積 ・構内指定場所に敷き均し 8.2.15][8.28.4] 試験及び報告書 試験杭の位置、本数及び寸法並びに施工方法 ・図示による () 杭の載荷試験の方法 ・図示による () 杭の載荷試験報告書の記載事項 ・ () 地盤の載荷試験の方法 ・図示による () 地盤の載荷試験報告書の記載事項 ・ () 杭地業 杭の工法、種類、寸法、施工方法等 ・図示による () 支持層の位置及び土質 (基礎ぐりの先端位置含む) ・図示による () 杭の溶接継手 技能資格者の技量 図示による () 溶接部の確認 図示による () 杭頭の処理 ・処理しない ・処理する 処理方法 (切断ともなる補強方法含む) ・図示による () 支持層への挿入れ長さ ・ () 水平法の位置ずれ ・杭径の1/4かつ100mm以下 ・評定等の評価内容による 記録する施工状況等 ・図示による ()																										
8-5 グラウト工事	8-12.4] 埋込み配管等の調査方法 ○鉄筋探知器 (金属探知器) により調査し、鉄筋、配管類の位置に墨出しを行う ・はつり出しによる 8.12.7] 試験方法 ※引張試験機による引張試験 確認強度 ○図示による (S-2)	8.2.12] ○柱底均しモルタル及びグラウト材 ・柱底均しモルタル ○無収縮モルタル 圧縮強度 (45N) 練り混ぜ2時間後の「リネ」率 (2%以下) 無収縮性材7日 (収縮しない) 圧縮強度材齢3日 (25N/mm ²) 圧縮強度材齢28日 (45N/mm ²) NEXCO試験方法 312-1999 (無収縮性品質管理試験法による) 実績などの資料を監督職員に提出する	8.2.15][8.28.4] 試験及び報告書 試験杭の位置、本数及び寸法並びに施工方法 ・図示による () 杭の載荷試験の方法 ・図示による () 杭の載荷試験報告書の記載事項 ・ () 地盤の載荷試験の方法 ・図示による () 地盤の載荷試験報告書の記載事項 ・ () 杭地業 杭の工法、種類、寸法、施工方法等 ・図示による () 支持層の位置及び土質 (基礎ぐりの先端位置含む) ・図示による () 杭の溶接継手 技能資格者の技量 図示による () 溶接部の確認 図示による () 杭頭の処理 ・処理しない ・処理する 処理方法 (切断ともなる補強方法含む) ・図示による () 支持層への挿入れ長さ ・ () 水平法の位置ずれ ・杭径の1/4かつ100mm以下 ・評定等の評価内容による 記録する施工状況等 ・図示による ()																										

横須賀市上下水道局					
工 事 名 称	下町浄化センター電気棟 耐震補強工事				
図 面 名 称	特記仕様書(8)				
縮 尺	-	図 面 番 号	A-8		
製 年 作 月	令和 5年 10月	原 図 サ イ ズ	A3		
課 長		係 長 等	担 当 者	設 計 者	

石綿含有建材の除去工事 [9.1.1]

石綿初じん濃度測定
測定時期、場所及び測定点

測定名称	測定時期	測定場所	測定箇所数 (各施工箇所ごと)
測定 1	処理作業前	処理作業室内	計 点
測定 2	処理作業中	調査対象室外部の付近	計 点
測定 3		処理作業室内	計 点
測定 4	処理作業中	セキュリティゾーン入口	計 点
測定 5		黒じん・排気装置の排出口 (処理作業室外の場合)	出口吹出し風速1m/s以下の位置 計 点
測定 6	処理作業中	処理作業室外 ・施工区画周辺 ・敷地境界	計 点
測定 7	処理作業後 (シート養生中)	処理作業室内	計 点
測定 8	処理作業後 (シート撤去後)	調査対象室外部の付近	計 点
測定 9	1週間以降		

測定方法
・自動測定器による測定

測定名称	測定方法
測定 4	初じん相対濃度計(デジタル初じん計)、パーティクルカウンター、繊維状粒子自動測定器(リアルタイムファイバーモニター)等の初じんを迅速に測定できる機器を用いた測定
測定 5	

・JIS K 3850-IIに基づいた測定

測定名称	メンブレンフィルタ 直径(mm)	試料の吸引流量 (L/min)	試料の吸引時間 (min)
測定 4	25	5	30
測定 5	47	10	120
測定 7	47	10	240
測定 9	25	5	120

石綿含有建材の処理 [9.1.3]

石綿含有吹付け材の除去
除去対象範囲
・図示による
除去方法
※改修標準仕様書9.1.3(2)(7)による

除去した石綿含有吹付け材等の飛散防止措置
※覆蓋化・固形化
除去した石綿含有吹付け材等の処分
・埋立処分(管理型最終処分場)
・中間処理(溶融施設又は無害化処理施設)

石綿含有保温材等の除去 [9.1.4]

除去対象範囲
・図示による
除去方法
・破砕して除去 手ばらし
除去した石綿含有保温材等の飛散防止
※覆蓋化・固形化
除去した石綿含有保温材等の処分
・埋立処分(管理型最終処分場)
・中間処理(溶融施設又は無害化処理施設)

石綿含有成形板(石綿含有けい酸カルシウム板第1種以外)の除去 [9.1.5]

除去対象範囲
○図示による
除去した石綿含有成形板の処分
○石綿含有せっこうボード
※埋立処分(管理型最終処分場)
○石綿含有せっこうボードを除く石綿含有成形板
○埋立処分(安定型最終処分場)
・中間処理(溶融施設又は無害化処理施設)

石綿含有成形板(石綿含有けい酸カルシウム板第1種)の除去
除去対象範囲
・図示による
養生方法
・図示による
足場
・図示による
除去した石綿含有けい酸カルシウム板第1種の処分
・埋立処分(安定型最終処分場)
・中間処理(溶融施設又は無害化処理施設)

石綿含有仕上塗材又は石綿含有成形板(下地調整材)の除去 [9.1.6]

除去対象範囲
・図示による
除去方法
養生方法
除去した石綿含有仕上塗材の処分
・埋立処分(安定型最終処分場)
・埋立処分(管理型最終処分場)
・中間処理(溶融施設又は無害化処理施設)

外断熱改修工事 [9.2.2]

断熱材
断熱材の種類
断熱材の厚さ(mm)
施工箇所
・図示による
ホルムアルデヒド放散量
※F☆☆☆☆

種類	防火性能	備考

既存外壁の処置 [9.2.3]

既存外壁仕上材の撤去
・あり なし
下地の清掃
・行う 行わない
欠損部の改修工法 [9.2.3]

工法 [9.2.4]

建築基準法に基づき定まる風圧力に対応した工法
不陸等の下地調整 [9.2.4]

断熱材の施工 [9.2.4]

断熱材製造所の仕様による

外装材の施工 [9.2.4]

外装材製造所の仕様による

透気層の有無 [9.2.4]

・あり (mm) なし

外装材の外壁への取付け [9.2.4]

・図示による

笠木の施工 [9.2.4]

・改修特記仕様書第3章 アルミニウム製笠木による

断熱・防湿改修工事 [9.3.2]

フェノールフォーム断熱材又は保温材、接着剤のホルムアルデヒド放散量 [9.3.2]

※F☆☆☆☆
開口部等補修のための張付け用の接着剤のホルムアルデヒド放散量 [9.3.2]

※F☆☆☆☆
断熱材打込み工法 [9.3.2]

断熱材 JIS A 9521に基づく発泡プラスチック断熱材
種類
厚さ(mm)
施工箇所
断熱材現場発泡工法 [9.3.3]

断熱材の種類
A種1 A種H
吹付け厚さ(mm)
25 30
施工箇所
・図示による [9.3.4]

断熱材後張り工法 [9.3.4]

断熱材 JIS A 9521に基づく発泡プラスチック断熱材
種類
厚さ(mm)
断熱材にせっこうボード等を張り付けたパネル
材質
厚さ(mm)
張り付け工法
断熱材の張り付け工法
断熱材へのボードの張付け工法

屋上緑化改修工事 [9.4.2]

植栽基盤及び材料
屋上緑化軽量システム
芝及び地被類の種類等
※図示による
見切り材、舗装材、排水孔、マルテング材等
※図示による
(品質・性能、試験方法は別表による)

工法 [9.4.3]

建築基準法に基づき定まる風圧力に対応した工法
・図示による
かん水装置
設置する(種類)
既存緑化層の撤去
・行う 行わない
新植した芝及び地被類の枯補償の期間
※引渡しの日から1年

透水性アスファルト舗装改修工事 [9.5.2]

既存舗装の撤去及び再利用
※図示による

路床 [9.5.2]

種類	材料	厚さ(mm)
盛土	A種・B種・C種・D種 ・建設汚泥から再生した処理土 ・再生クラッシュラン ・クラッシュラン	図示による
凍上抑制層	切込み砂利 ・砂	図示による
フィルター層	・砂	図示による

凍上抑制層に用いる材料に砂を用いる場合の粒度試験 [9.5.3]

・行う 行わない [9.5.3]

路床安定処理 [9.5.3]

安定処理の方法
・置き換え工法
・安定処理工法
路床安定処理用添加材料
種類 [9.5.2]

・普通ポルトランドセメント
・高炉セメントB種
・フライアッシュセメントB種
・生石灰(・特号・1号)
・消石灰(・特号・1号)

試験 [9.5.3]

路床土の支持力比(CBR)試験
・行う 行わない
路床締固めの試験
・行う 行わない
現場CBR試験
・行う 行わない

路盤 [9.5.4]

路盤の厚さ [9.5.4]

・図示による [9.5.3]

路盤材料(改修標準仕様書表9.7.3Iによる種別) [9.5.3]

・クラッシュラン
・粒度調整砕石
・再生クラッシュラン
・再生粒度調整砕石
・クラッシュラン鉄鋼スラグ
・粒度調整鉄鋼スラグ
・水硬性粒度調整鉄鋼スラグ

舗装の構成 [9.5.5]

・図示による [9.5.9]

開粒度アスファルト混合物等の抽出試験
・行う 行わない [9.5.9]

舗装の平坦性 [9.5.9]

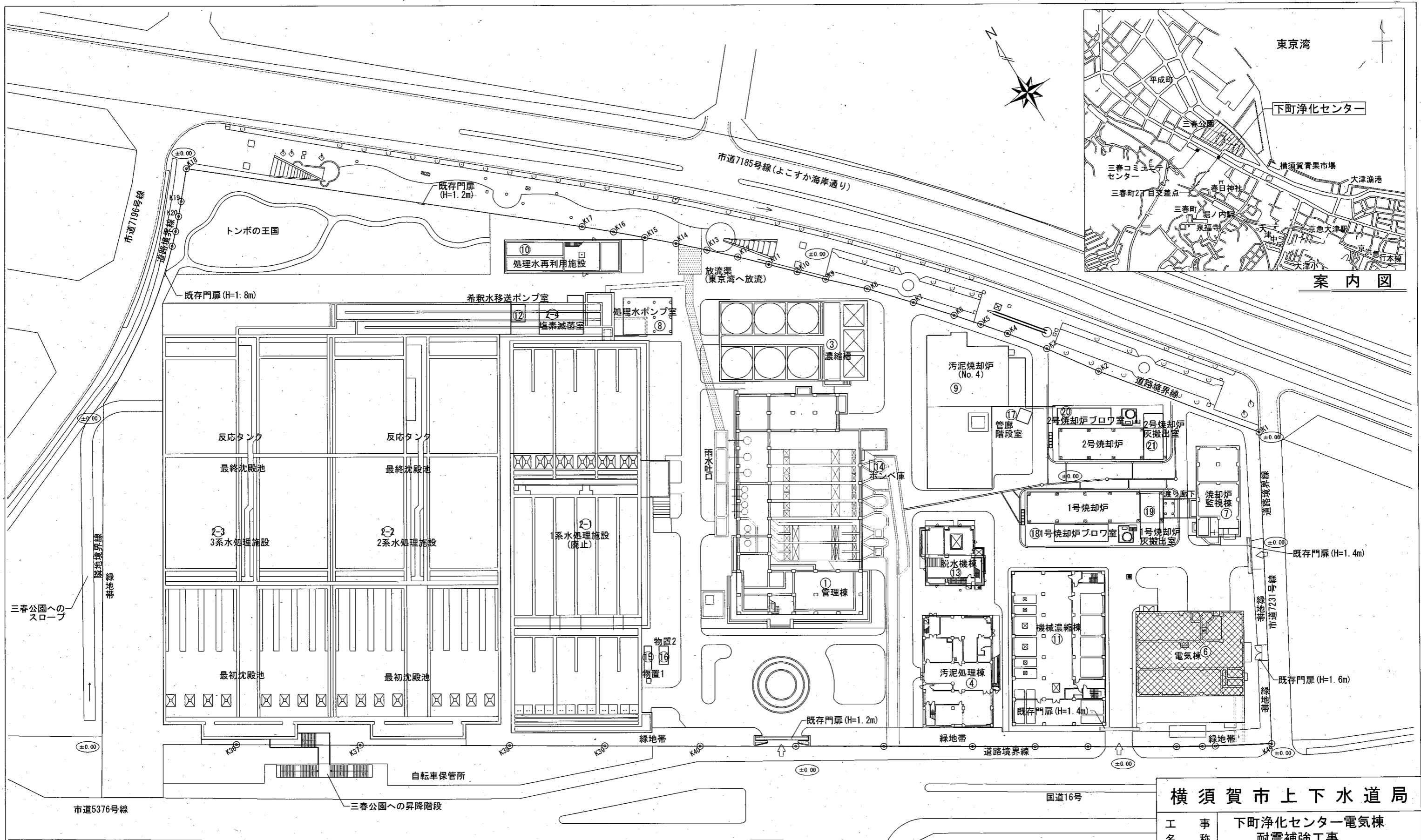
※著しい不陸がないもの

横須賀市上下水道局

下町浄化センター電気棟
耐震補強工事

特記仕様書(9)

工 事 名 称	下町浄化センター電気棟 耐震補強工事		
図 面 名 称	特記仕様書(9)		
縮 尺	-	図 面 番 号	A-9
製 年 作 月	令和 5年 10月	原 図 サ イ ズ	A3
課 長	係 長 等	担 当 者	設 計 者

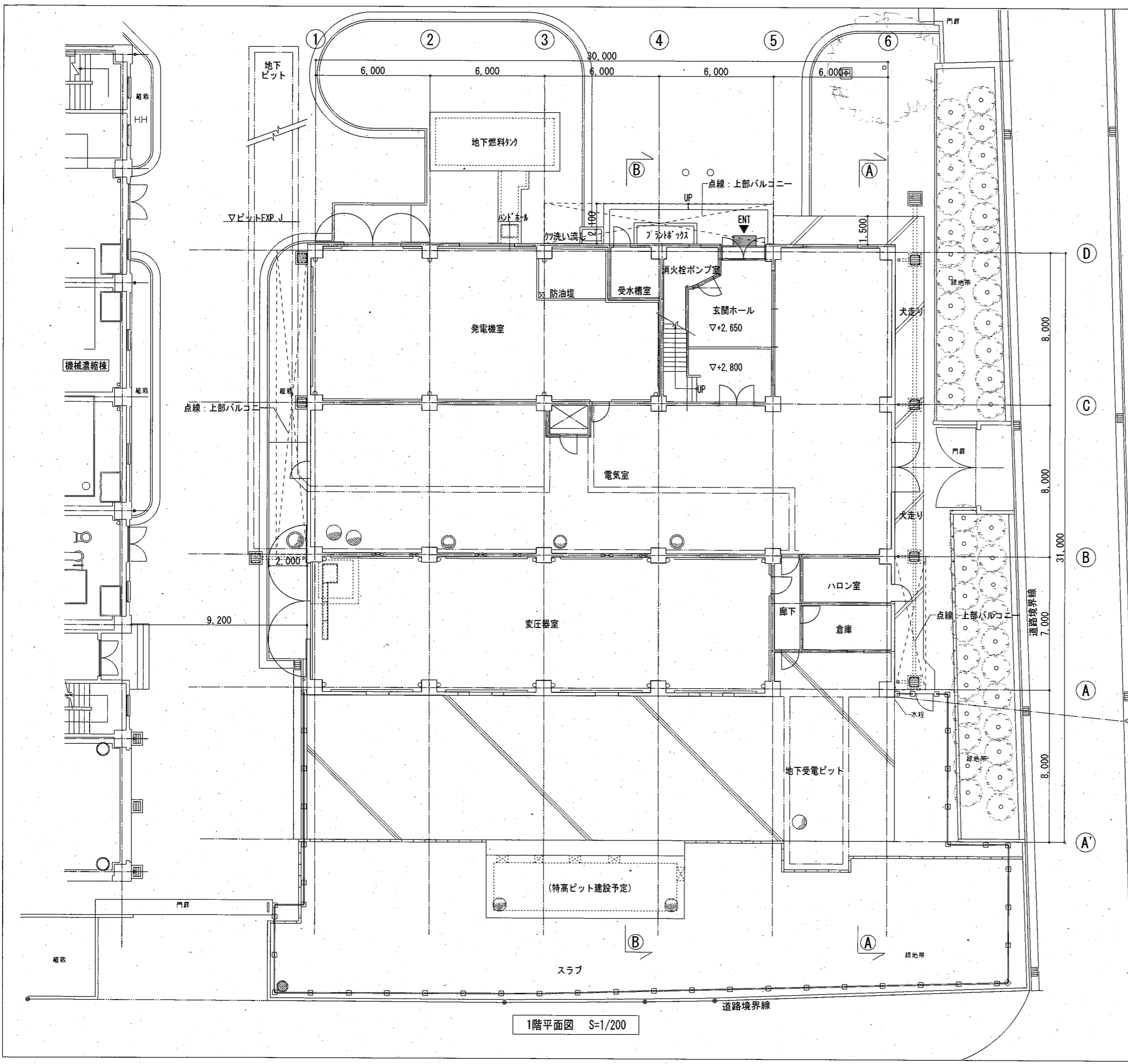
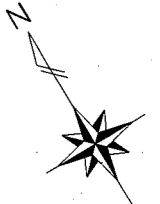


設計GL: TP+2.300 (=平均地盤面)
 本敷地内に土地の高低は無い
 <凡例>
 (±0.00): 設計GLとの高低差

一般平面図 S=1/1,000

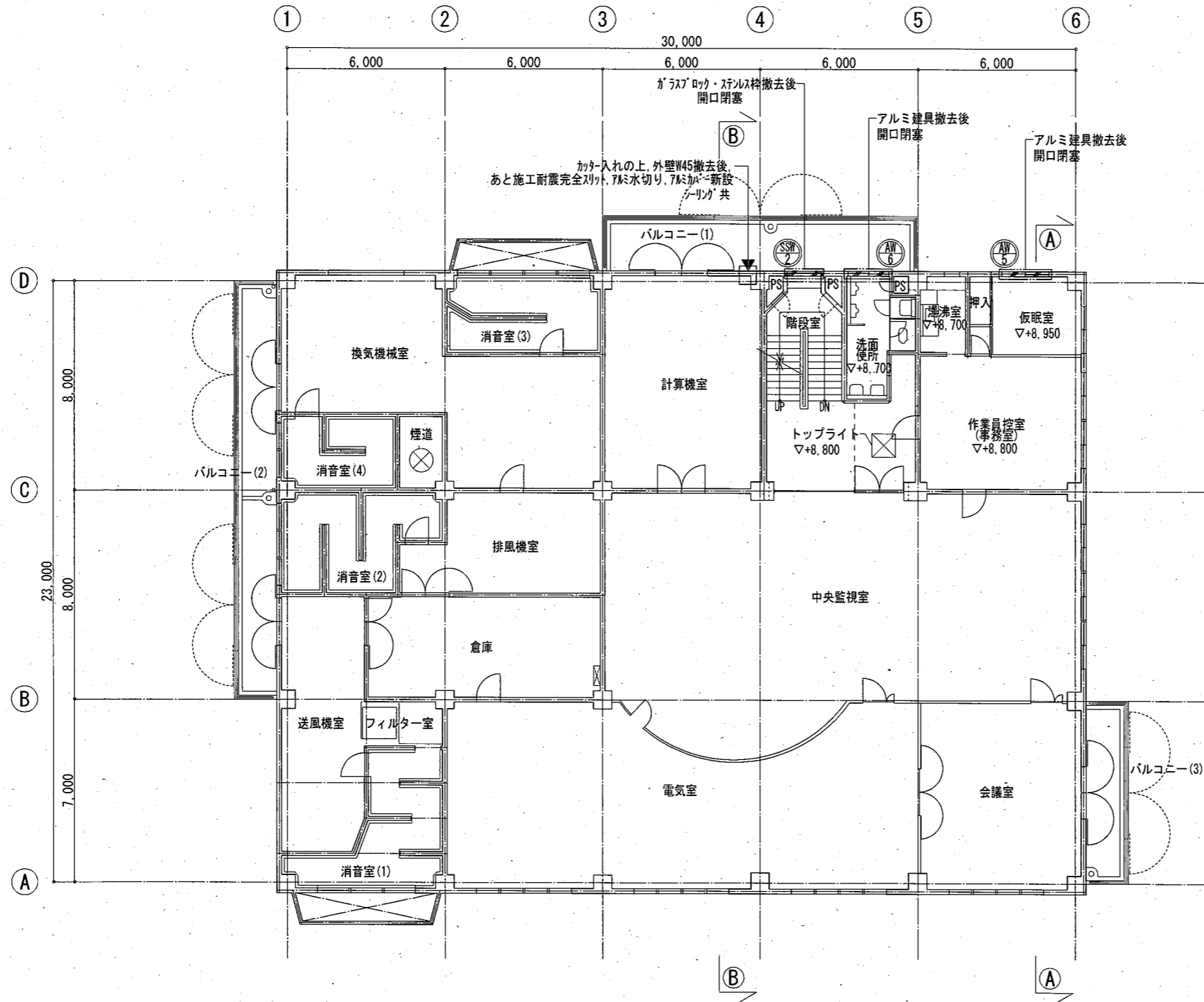
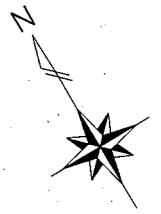
: 今回対象建築物
 : 車両出入口

横須賀市上下水道局			
工 事 名 称	下町浄化センター電気棟 耐震補強工事		
図 面 名 称	案内図・一般平面図		
縮 尺	1/1,000	図 面 番 号	A-10
製 作 年 月	令和 5年 10月	原 図 大 小	A3
課 長	係 長 等	担 当 者	設 計 者



▽+00 : FL (TP表記)

横須賀市上下水道局				
工名	事称	下町浄化センター電気棟 耐震補強工事		
図名	面称	1階平面図		
縮尺	1/200	図番	面号	A-11
製年	作月	令和 5年 10月	原サイズ	A3
課長	係長等	担当者	設計者	

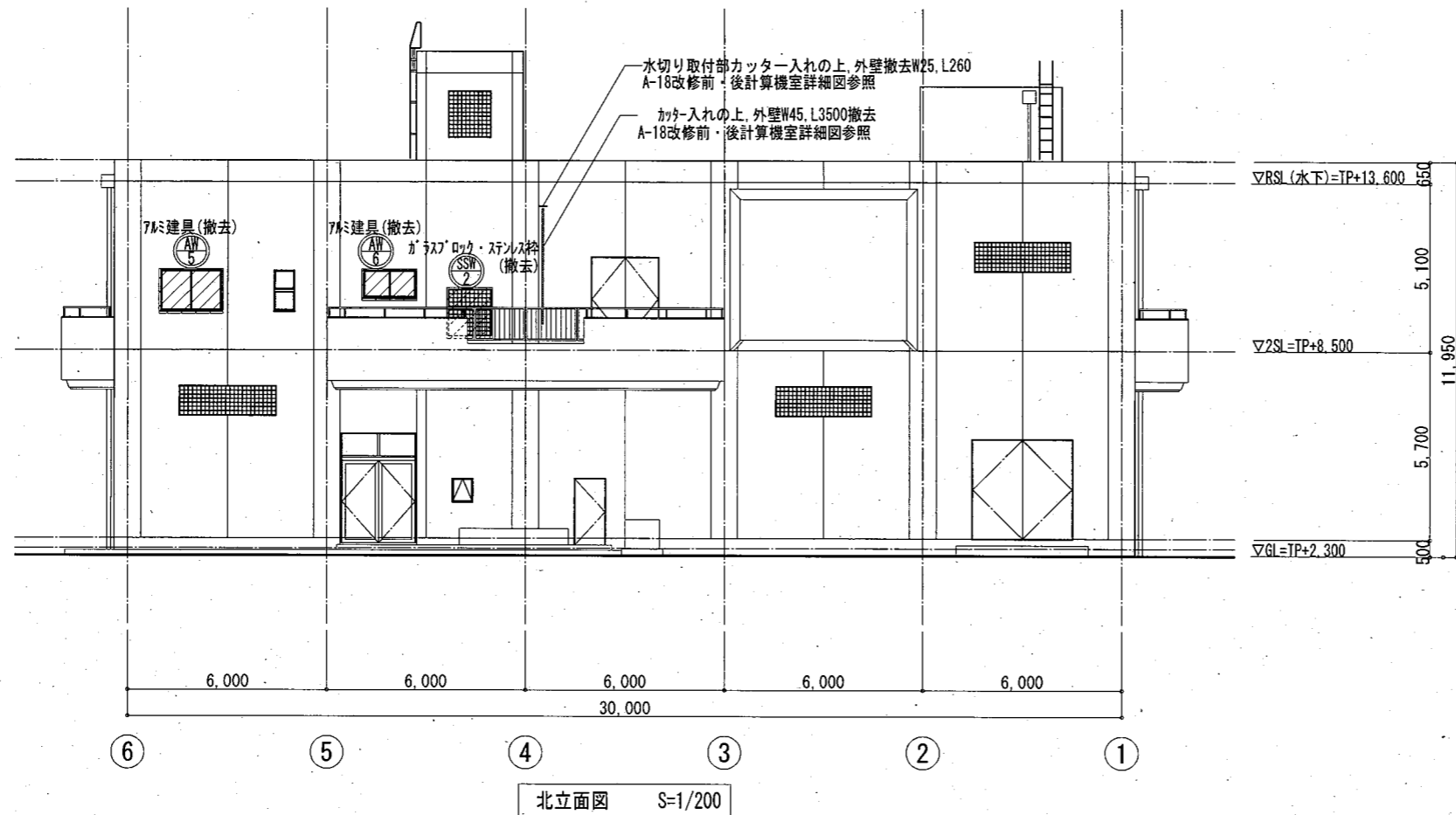


2階平面図 S=1/200

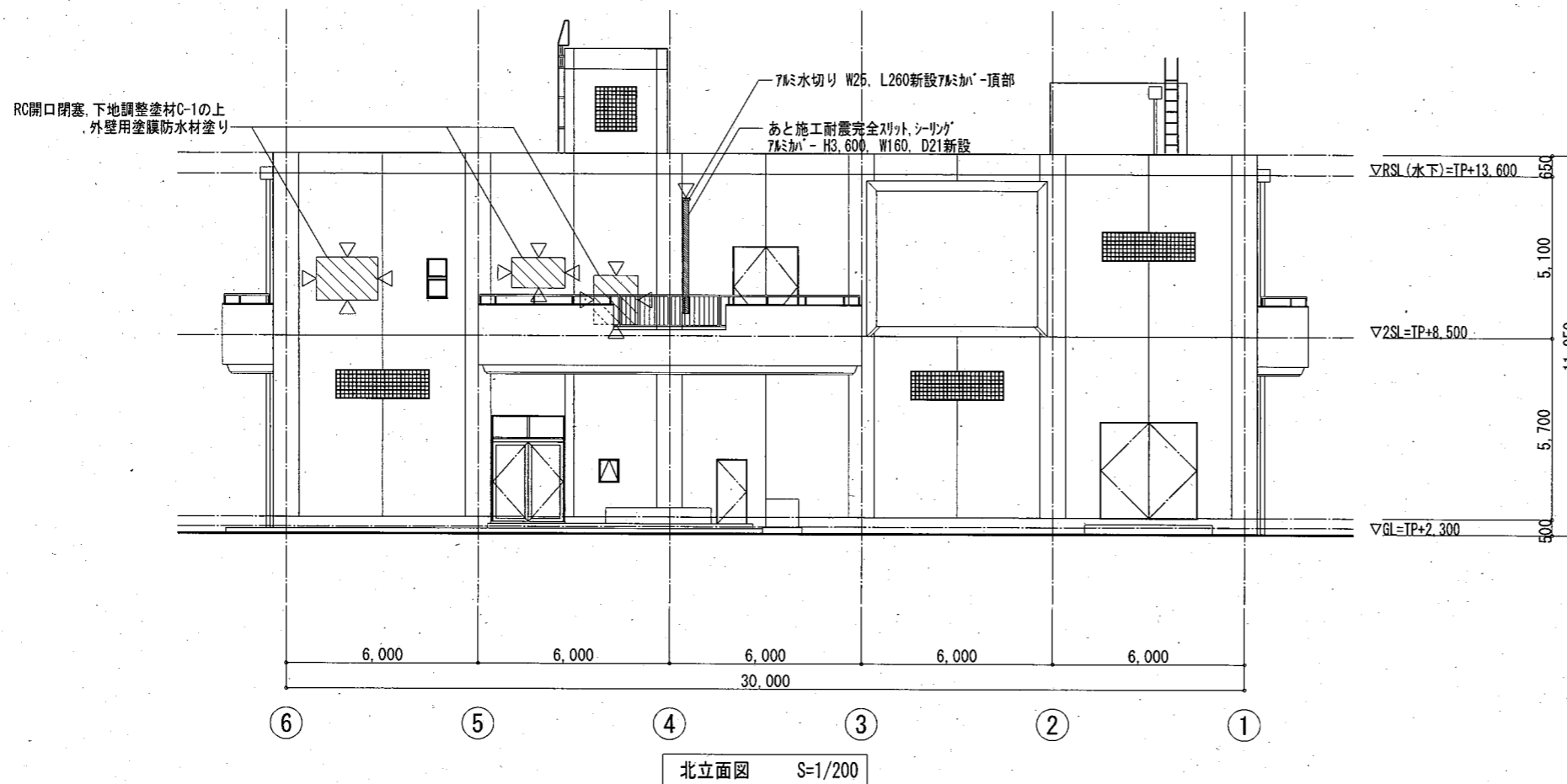
- 凡例
- 耐震改修工事範囲を示す
 - ⊖ 撤去建具符号を示す
 - 開口閉塞を示す
 - ▶ 構造スリットを示す
- ▽+〇〇 FL (TP表記)

横須賀市上下水道局				
工 事 名 称	下町浄化センター電気棟 耐震補強工事			
図 名	2階平面図			
縮 尺	1/200	図 番	面 号	A-12
製 年	令和 5年 10月	原 図	尺 寸	A3
課 長	係 長 等	担 当 者	設 計 者	

改修前

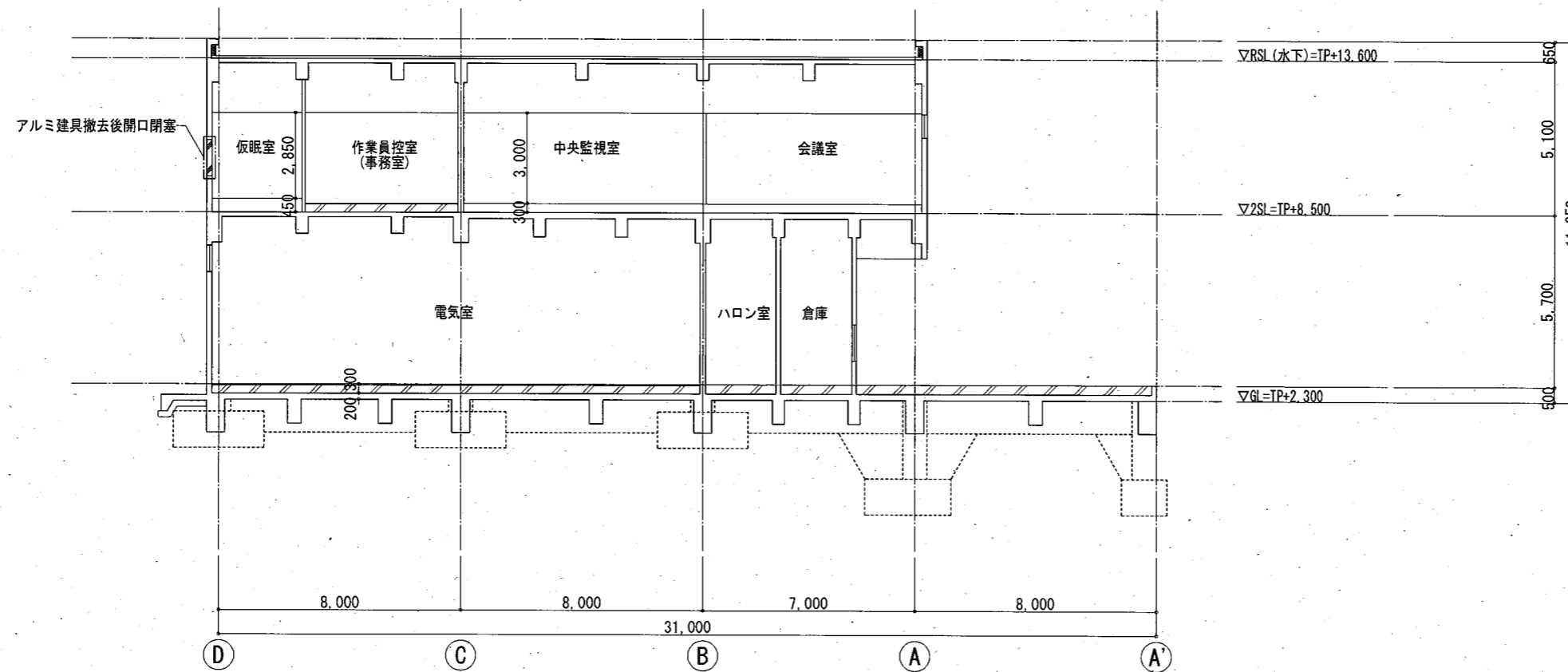


改修後

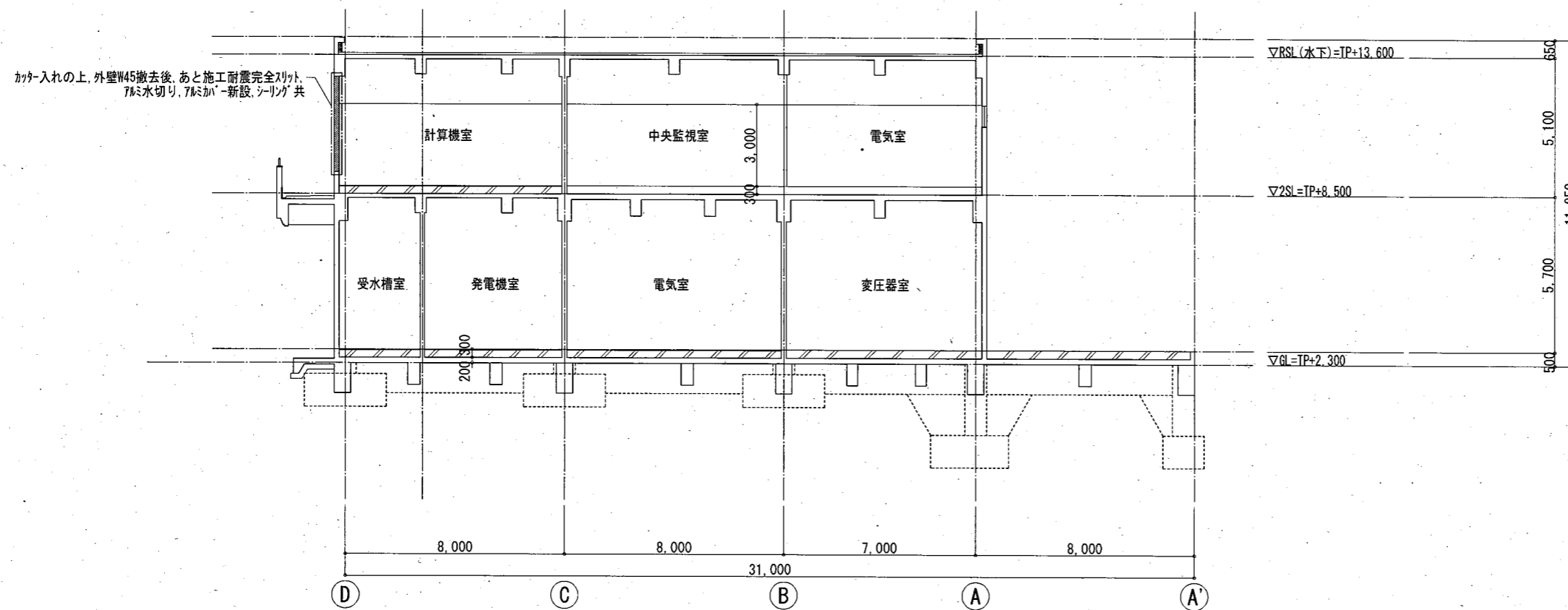


横須賀市上下水道局

工名	下町浄化センター電気棟		
事称	耐震補強工事		
図名	改修前後 北立面図		
縮尺	1/200	図番	A-13
製年	令和 5年 10月	原図	A3
課長	係長等	担当者	設計者



A-A断面図 S=1/200

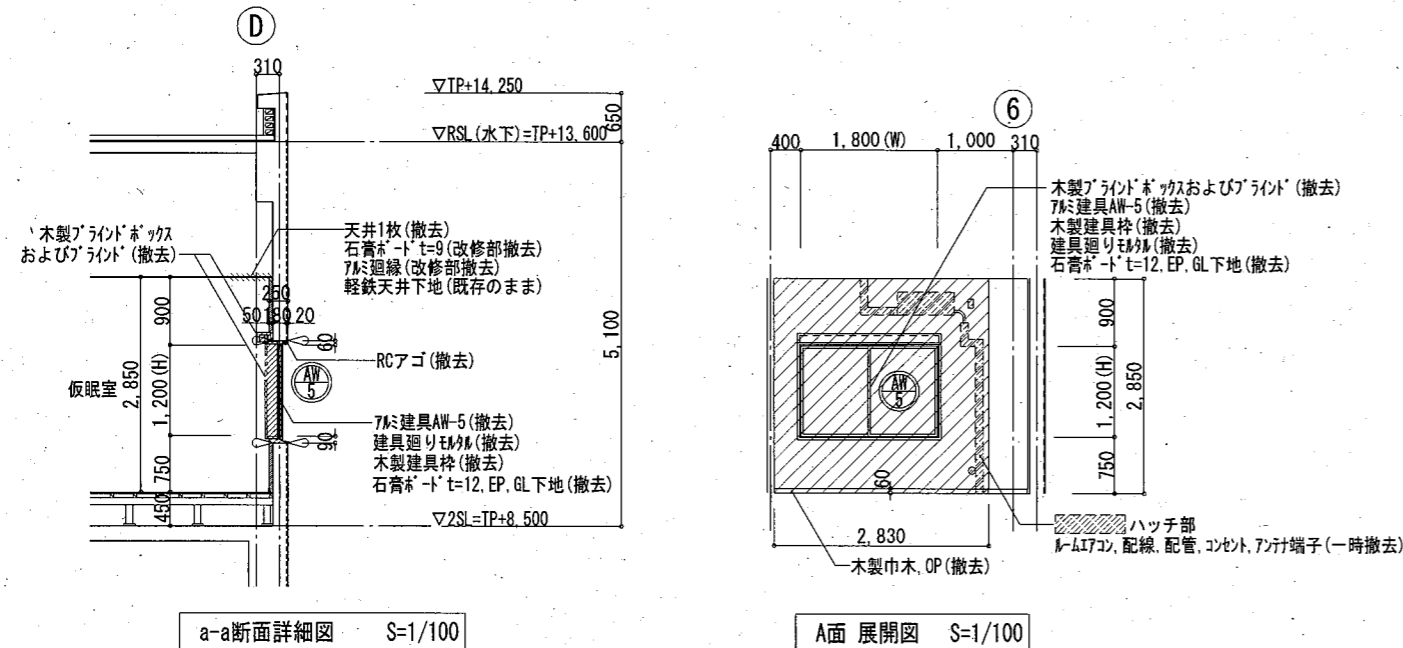
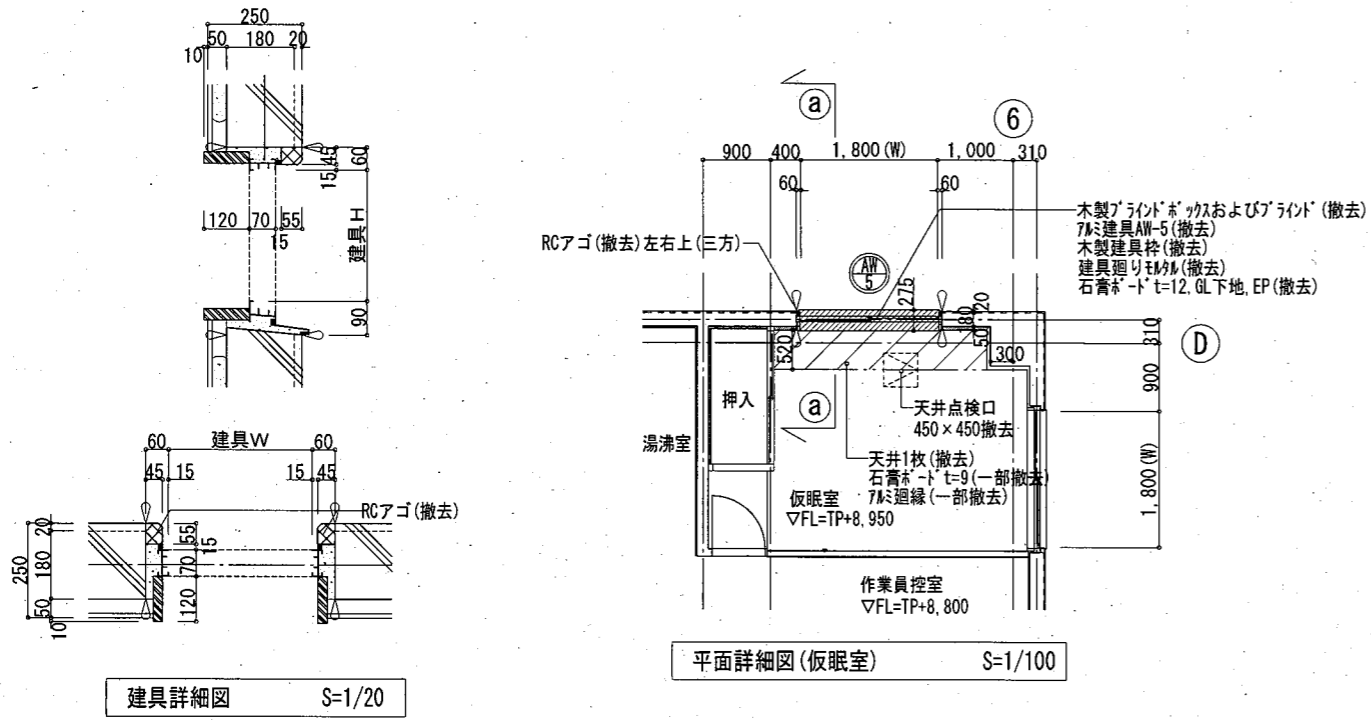


B-B断面図 S=1/200

- 凡例
- 耐震改修工事範囲を示す
 - 開口閉塞を示す
 - 耐震(完全)スリットを示す

横須賀市上下水道局				
工 事 名	下町浄化センター電気棟 耐震補強工事			
図 面 名	断面図			
縮 尺	1/200	図 面 番 号	A-14	
製 年 作 月	令和 5年 10月	原 図 大 小	A3	
課 長	係長等	担当者	設計者	

改修前

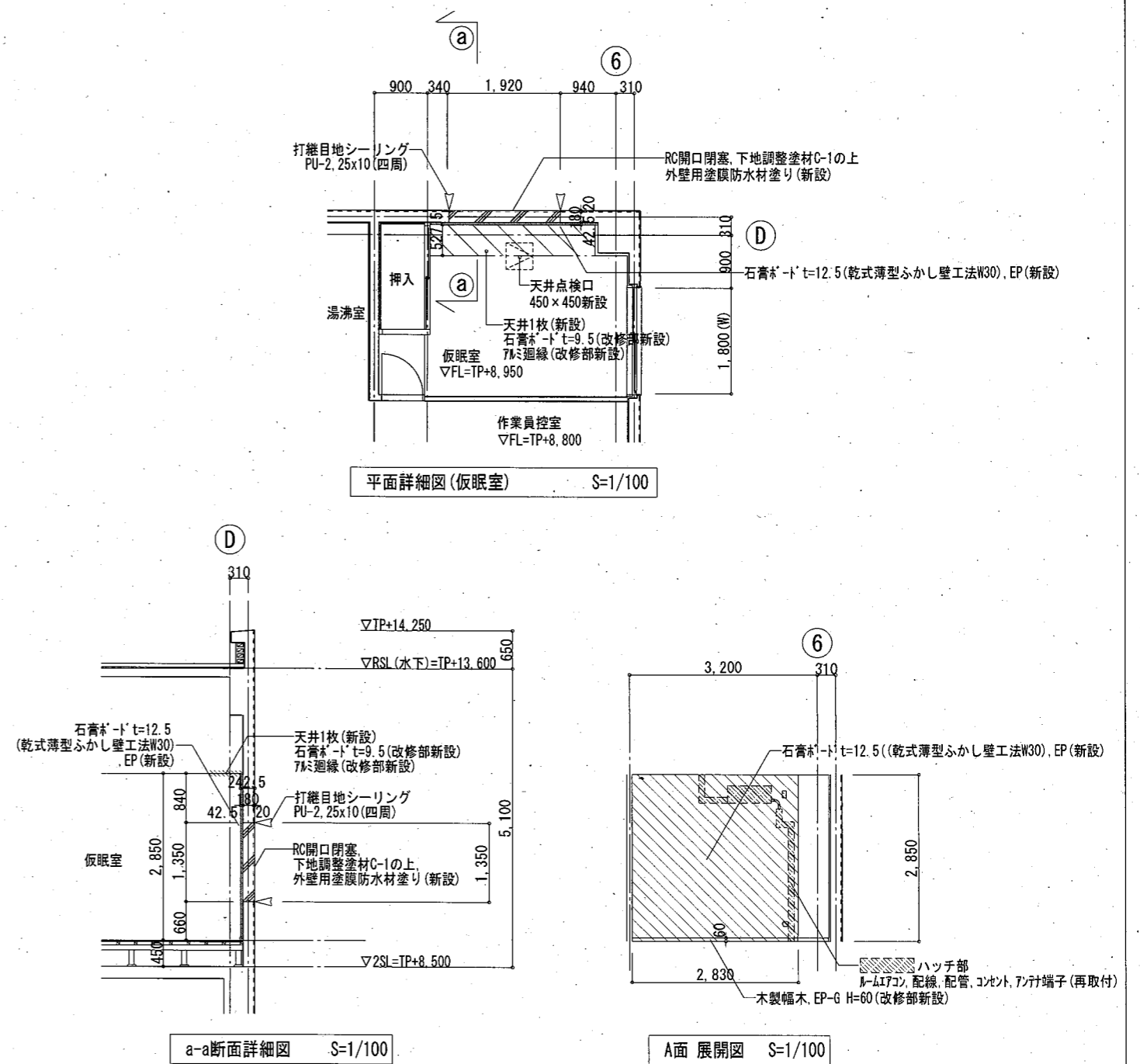


室名	仮眠室
床	合板捨貼下地, 天然木化粧複合フローリング t=12(存置)
幅木	木製幅木, OP H=60(改修部撤去)
壁	石膏ボード ※1 t=12, EP, GL下地(改修部撤去)
柱型	石膏ボード ※1 t=12, GL下地, EP(存置)
天井	石膏ボード ※1 t=9, 目透し貼, EP, 7mm廻縁(改修部撤去)
備考	木製アライドボックスおよびアライド(撤去) 木製建具枠(撤去) 天井点検口450×450(撤去) M-L7コ, 配線, 配管, コンセント, アンテナ端子(一時撤去)

※1: アスベスト含有

改修前凡例
○ カッター入れ位置を示す

改修後



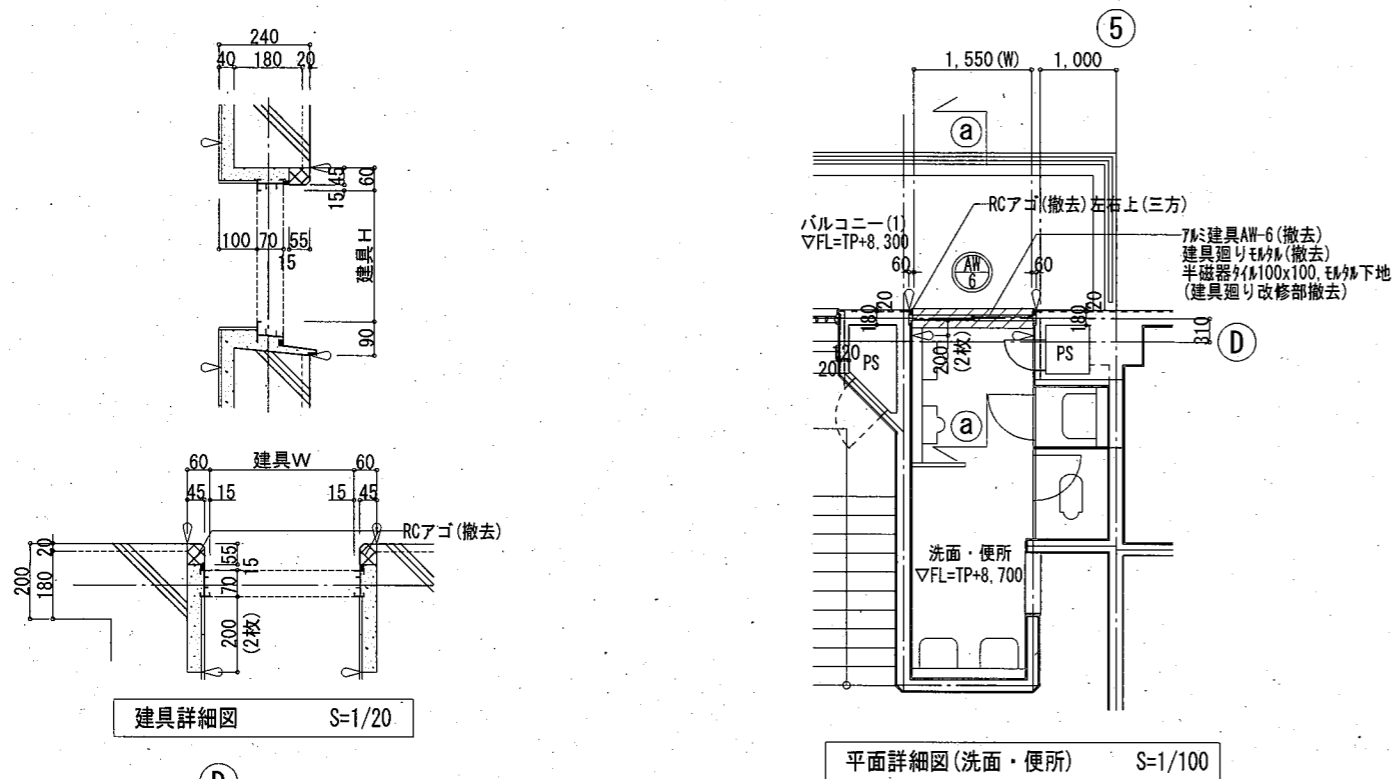
室名	仮眠室(改修新設部)
床	
幅木	木製幅木, EP-G H=60
壁	石膏ボード t=12.5, 軽量鉄骨下地W30, EP
柱型	
天井	石膏ボード t=9.5, 目透し貼, EP, 7mm廻縁
備考	M-L7コ, 配線, 配管, コンセント, アンテナ端子(再取付) 点検口450×450(改修部新設)

改修後凡例
◁ 打継目地シーリング位置を示す

横須賀市上下水道局

工事名	下町浄化センター電気棟 耐震補強工事		
図名	改修前後 仮眠室詳細図		
縮尺	1/20, 1/100	図面番 原図サイズ	A-15
製作年	令和 5年 10月	原図サイズ	A3
課長	係長等	担当者	設計者

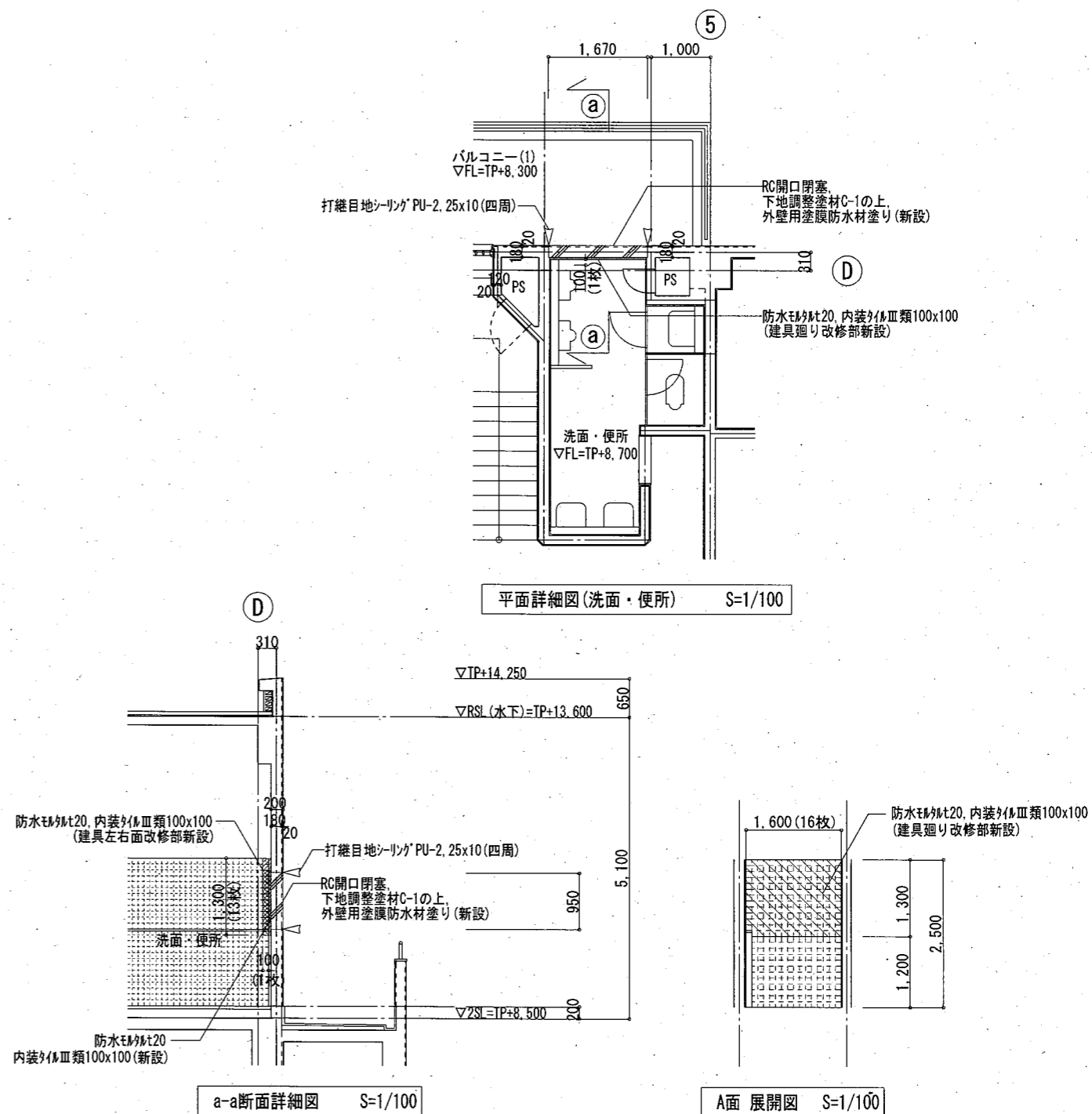
改修前



室名	洗面・便所
床	防水層、無筋コンクリートt=150、磁器質床材M50x50(存置)
幅木	—
壁	半磁器タイル100x100、タイル下地(建具廻り改修部撤去)
柱型	—
天井	石綿セメント板(7レキアM板)t=5、目透し貼、EP(存置)
備考	内部廻縁なし

改修前凡例
 ◁ カッター入れ位置を示す

改修後



室名	洗面・便所(改修新設部)
床	—
幅木	—
壁	防水タイルt20、内装タイルⅢ類100x100(建具廻り)
柱型	—
天井	—
備考	—

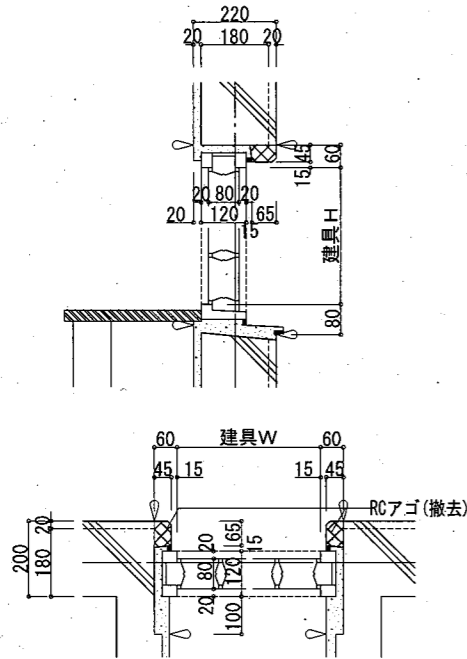
改修後凡例
 ◁ 打継目地シーリング位置を示す

横須賀市上下水道局

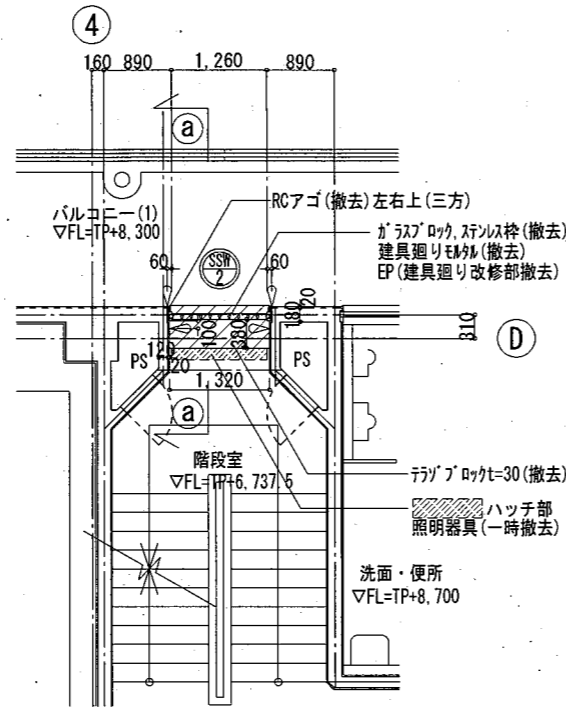
工名	下町浄化センター電気棟 耐震補強工事		
図名	改修前後洗面・便所詳細図		
縮尺	1/20, 1/100	図番	A-16
製年	令和 5年 10月	原図	A3
課長	係長等	担当者	設計者

改修前

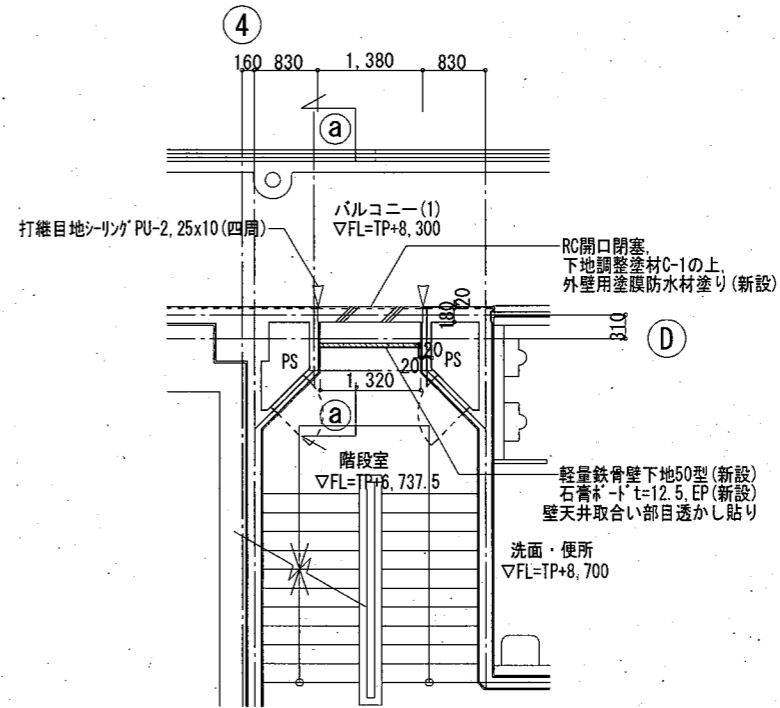
改修後



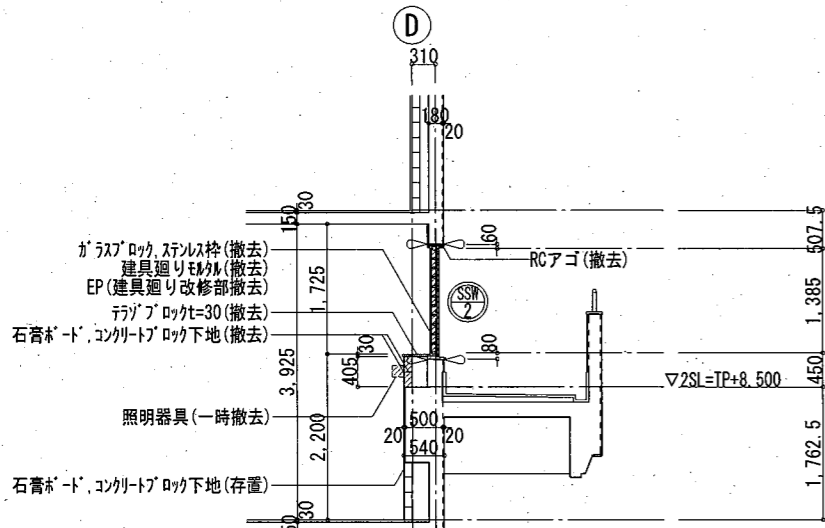
ガラスブロック詳細図 S=1/20



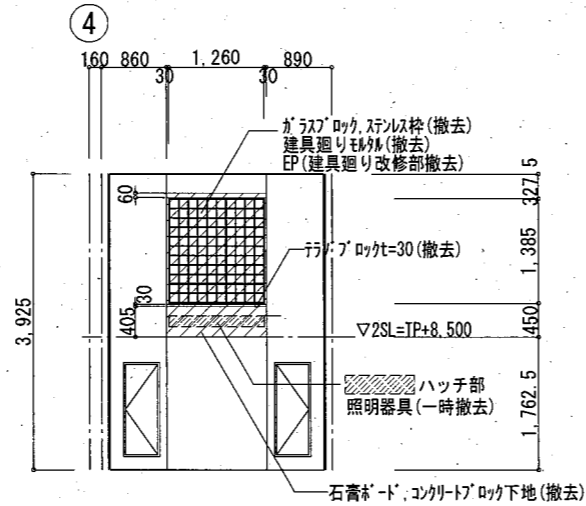
平面詳細図(階段室) S=1/100



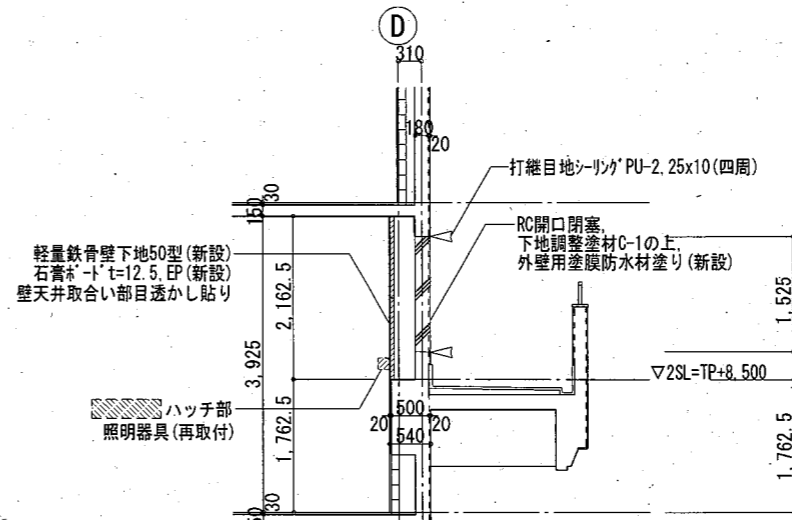
平面詳細図(階段室) S=1/100



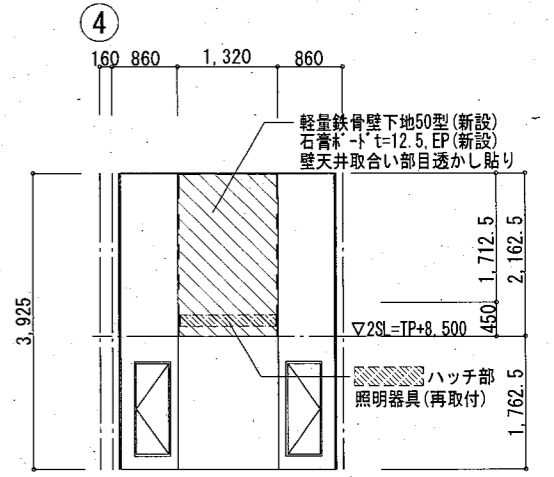
a-a断面詳細図 S=1/100



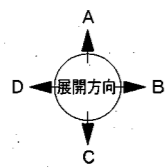
A面展開図 S=1/100



a-a断面詳細図 S=1/100



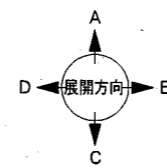
A面展開図 S=1/100



室名	階段室
床	モルタル金ゴテ下地、ビニル樹脂系タイル(存置)
幅木	テラゾロケット=100(存置)
壁	モルタル金ゴテ、EP(建具廻り改修部撤去) ふかし壁部分: コンクリートブロック下地、石膏ボード※1 t=12.5, EP(改修部撤去)
柱型	
天井	段裏 コンクリート打放し7割刷り吹付け(存置)
備考	内部額縁なし 甲板テラゾロケット=30(撤去) 照明器具(一時撤去)

※1: アスベスト含有

改修前凡例
◁ カッター入れ位置を示す



室名	階段室 (改修新設部)
床	
幅木	
壁	軽量鉄骨壁下地50型 石膏ボード t=12.5, EP
柱型	
天井	
備考	照明器具(再取付)

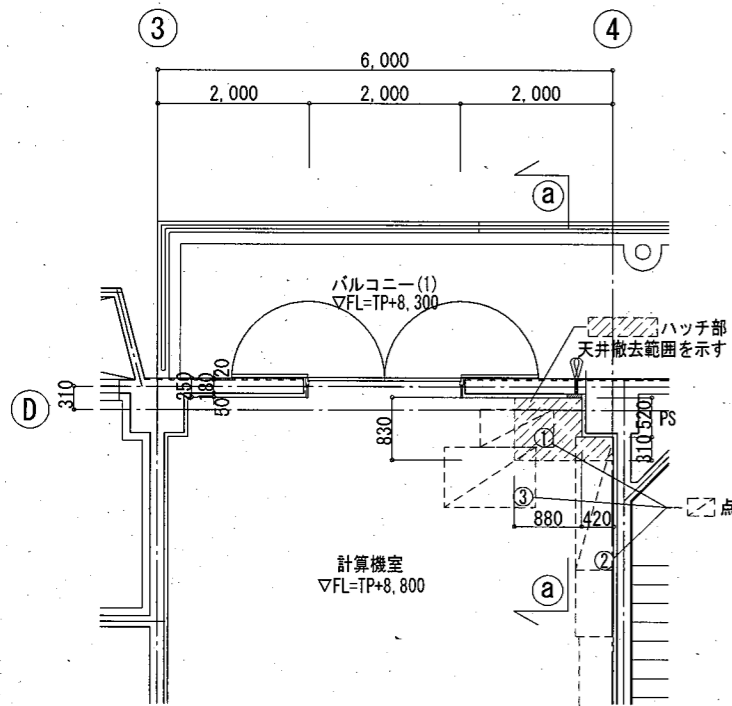
改修後凡例
◁ 打継目地シーリング位置を示す

横須賀市上下水道局

工事名	下町浄化センター電気棟 耐震補強工事		
図面名称	改修前後 階段室詳細図		
縮尺	1/20, 1/100	図番号	A-17
製作年	令和 5年 10月	原図サイズ	A3
課長	係長等	担当者	設計者

改修前

改修後

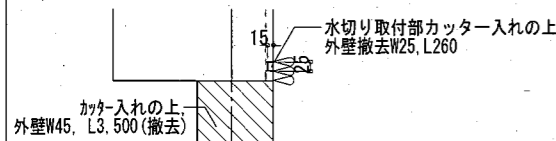


室名	計算機室
床	7M-7Mスラブ707, 7Mミタガシ製 450x450 (存置) ボ-タ-部: 無筋コンクリートt=270, 珪藻土下地, ビニ-7Mス-システム (存置)
幅木	木製幅木, OP H=100 (改修部撤去)
壁	石膏ボード※1 t=12, GL下地, EP (改修部撤去)
柱型	石膏ボード※1 t=12, GL下地, EP (存置)
天井	石膏ボード※1 t=9 捨貼下地, 岩綿吸音板t=9, 7M廻り縁 (改修部撤去) 軽鉄天井下地 (改修部撤去), 吊りボ-ト (存置)
備考	ス-ル棚 (1) (2), 机 (3) 一時移動 カッター入れの上, 外壁W45撤去

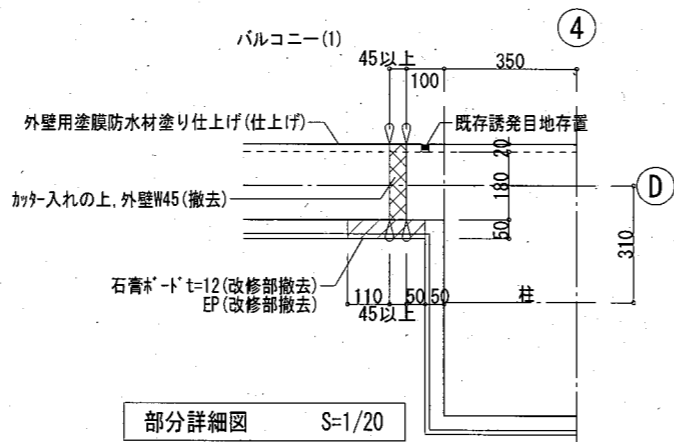
※1: アスベスト含有

- 点線部
- ① ス-ル棚 W960 D500 H1,330 (一時移動)
 - ② ス-ル棚 W1,760 D500 H2,200 (一時移動)
 - ③ 机 W1,200 D800 H650 (一時移動)

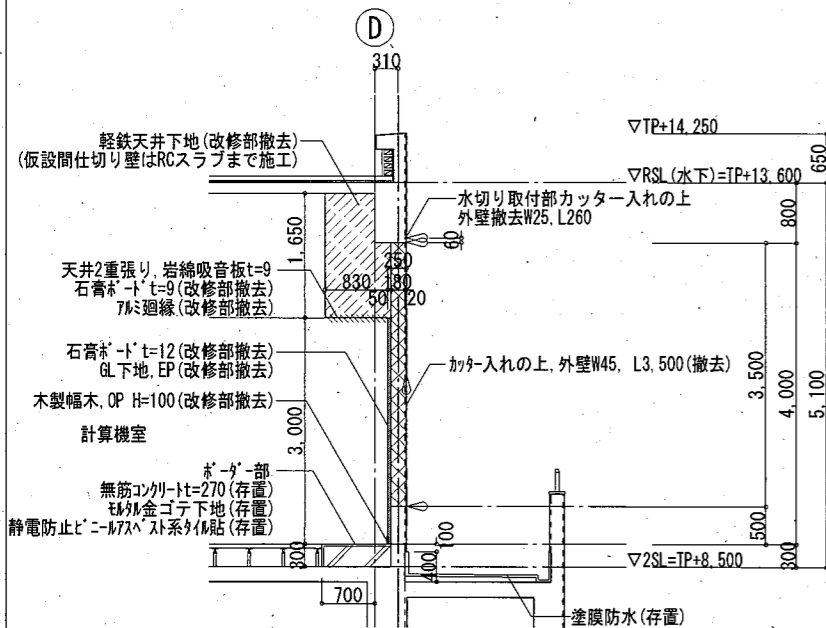
平面詳細図 (計算機室) S=1/100



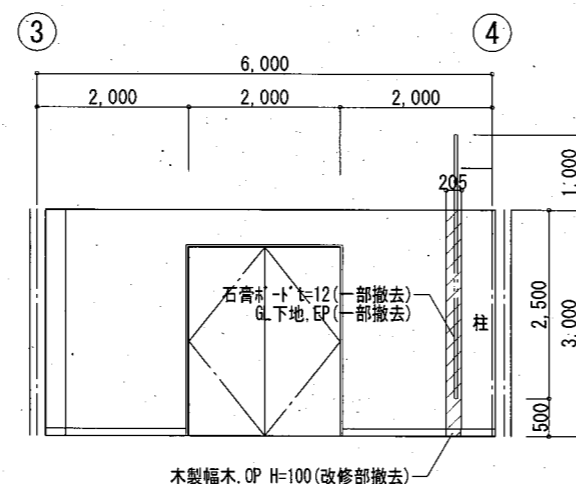
水切り取付部撤去断面詳細図 S=1/20



部分詳細図 S=1/20

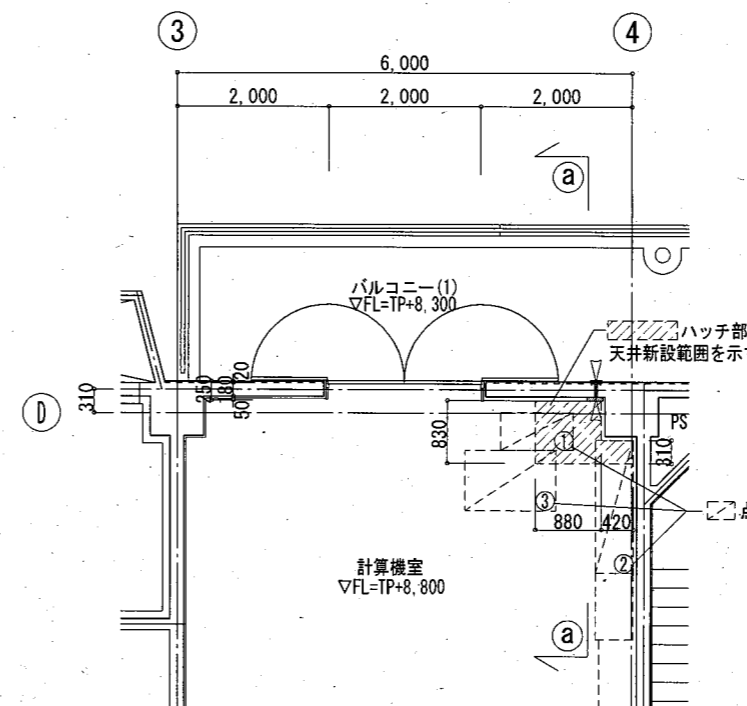


a-a断面詳細図 S=1/100



A面展開図 S=1/100

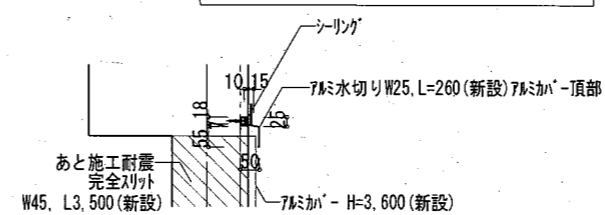
改修前凡例
○ カッター入れ位置を示す



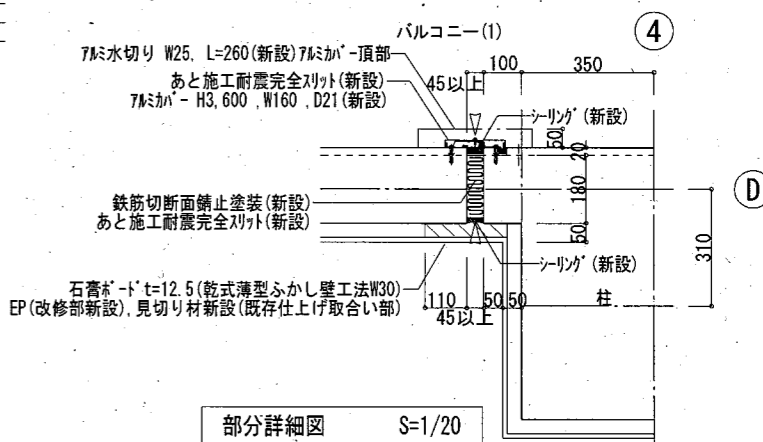
室名	計算機室 (改修新設部)
床	
幅木	木製EP-6幅木 H=100
壁	石膏ボードt=12.5 (乾式薄型ふかし壁工法W30), EP
柱型	
天井	石膏ボードt=9.5捨貼下地, 岩綿吸音板t=9, 7M廻り縁 軽鉄天井下地, 吊りボ-ト (既存利用)
備考	ス-ル棚 (1) (2), 机 (3) 再設置 あと施工耐震完全スリット, 7Mミカ- H=3,600, 7M水切り L=260 7Mミカ- 頂部, シーリング

- 点線部
- ① ス-ル棚 W960 D500 H1,330 (再設置)
 - ② ス-ル棚 W1,760 D500 H2,200 (再設置)
 - ③ 机 W1,200 D800 H650 (再設置)

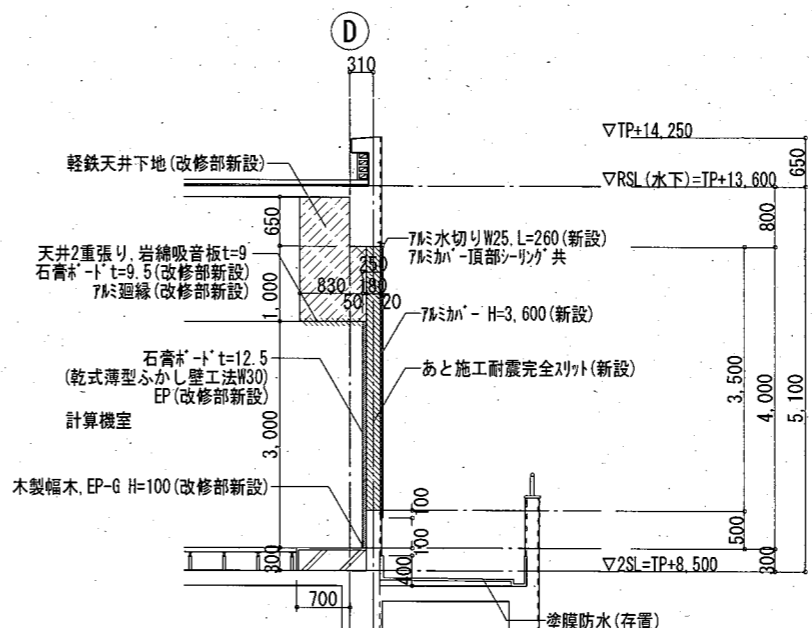
平面詳細図 (計算機室) S=1/100



7M水切り断面詳細図 S=1/20

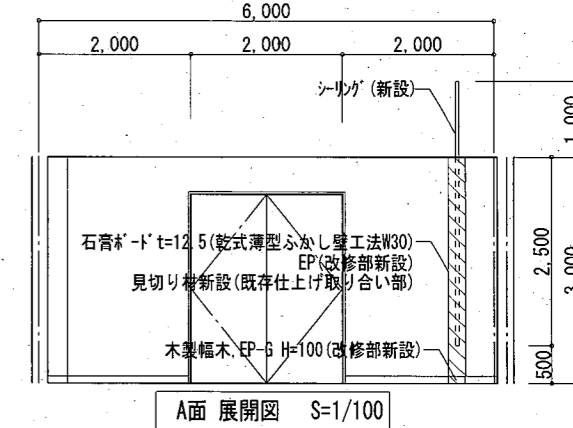


部分詳細図 S=1/20



a-a断面詳細図 S=1/100

改修後凡例
△ シーリング位置を示す



A面展開図 S=1/100

横須賀市上下水道局

下町浄化センター電気棟
耐震補強工事

工 事 名 称	下町浄化センター電気棟 耐震補強工事		
図 面 名 称	改修前後 計算機室詳細図		
縮 尺	1/20, 1/100	図 面 番 号	A-18
製 作 年 月	令和 5年 10月	原 図 サ イ ズ	A3
課 長	係 長 等	担 当 者	設 計 者

建具 リスト

撤去	符号・名称・個数	AW アルミ製 引違い窓 1	AW アルミ製 引違い窓 1	SSD ステンレス製 網戸用取付枠 1				
	場所	2F 仮眠室	2F 便所	2F 階段室				
建具	仕上(枠共)	アルミ	アルミ	SUS PL-2.0 HL				
	見込(ランマ)	70	70	120				
	硝子(ランマ)	N, t=6.8	N, t=6.8	ガラスロック 115角x80				
建具枠	見込取合	木製:120						
枠記号	枠記号(水切)記号							
附属金物一式	附属金物一式	附属金物一式	附属金物一式					
その他	二重皿板, 7&Mアングル 115x15 4方, 可動式網戸付	二重皿板, 可動式網戸付	二重皿板(7&M)					
形状・寸法								
新設	符号・名称・個数	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">撤去(開口閉塞)</div> <div style="text-align: center;">撤去(開口閉塞)</div> <div style="text-align: center;">撤去(開口閉塞)</div> </div>						
	場所							
仕上(枠共)								
建具	見込(ランマ)							
	硝子(ランマ)							
	ガラリ							
建具枠	見込取合							
枠記号	枠記号(水切)記号							
附属金物一式								
その他								
形状・寸法								

横須賀市上下水道局

下町浄化センター電気棟
耐震補強工事

改修前・後 建具リスト

縮尺	1/100	図面番号	A-19
製年	令和 5年 10月	原図サイズ	A3
課長	係長等	担当者	設計者

- 特記なき限り外部はシリンダ箱錠(内部サムターン)とし内部は本網戸付きモノロックとする。
- バースペース、ダクトスペースの点検扉はシリンダ本網戸とする。
- 便所等の施錠を必要としない箇所は空錠とし、押板、押棒の場合は錠不要とする。
- AH, FHを除きDCの有無にかかわらず出入口には戸当り、あおり止め(防火戸を除く)をつける。
- 壁仕上げボード等の場合は床付とする。(但し、通行に支障のあるものは除く。)
- 特記なき限り外部に面するガラリ戸は防鳥網付きとする。
- アルミニウム製の網戸金物、掛り口操作レバーの位置は床から1,500以内とする。
- 大型、気密網戸建具はシリンダ本網戸錠付きとする。
- 特記なき限り内部建具のガラリはI型とする。(特選り詳細による。)
- 特記なき限り網戸の見込みは40mmとする。
- 防火戸の位置は建具設置図による。
- 特記なき限り気密層・簡易気密層の吸音材の充填は行わないものとする。
- 階段室の施錠を必要としない箇所は空錠とする。
- 特記なき限り開きの防火戸は横位調整器付とする。
- 特記なき限り扉の取手はレバーハンドルとする。
- AT-2, AT-4の補強材はアングル(L-50x50x6)の通し物とする。

種別	建具略号							
	戸	窓	ガラリ	ネット	紙障子	ふすま	シャッター	網戸
アルミニウム製	AD	AW	AG	AOD			AS	aW
鋼製	SD	SW	SG	SOD			SS	
鋼製軽量	LD						LS	
ステンレス製	SSD	SSW	SSG				SSS	
木製	WD	WW	WG		P	H		
F 型板ガラス				DC	ドアクローザー			
P フロート板ガラス				AH	オートヒンジ			
N 網入型板ガラス				FH	フロアヒンジ			
NP 網入みがき板ガラス				PH	ピボットヒンジ			

○ 撤去建具符号を示す。

構造細目共通図(建築構造物)

< 令和4年版 >

※本図面は(一社)全国上下水道コンサルタント協会が著作権を有するものである。
 使用にあたっては、上記協会への使用届の提出と、配布番号の記載が必要である。
 枠外右下の(協会番号)と(配布番号)の記載が無い図面は無効とする。

1 特記事項

1.1 適用範囲

- (1)本構造細目共通図は下水道施設における処理場、ポンプ場の建築構造物に適用する。
 (2)図面及び構造細目共通図に記載されていない事項は、下記に基づくものとし、これらに相違がある場合は監督職員に確認し指示を受ける。

1)建築工事特記仕様書	(別紙による。)
2)建築改修工事特記仕様書	(別紙による。)
3)建築工事一般仕様書	(令和 4年版)
4)公共建築工事標準仕様書(建築工事編) 国土交通省大臣官房官庁営繕部	(令和 4年版)
5)公共建築改修工事標準仕様書(建築工事編) 国土交通省大臣官房官庁営繕部	(令和 4年版)

- (3)項目は、○印のついたものを適用する。○印のない場合は、※印のあるものを適用する。○印と⊗印のある場合は、共に適用する。

1.2 鉄筋の仕様

鉄筋の種類及び継手は、別紙建築工事特記仕様書又は建築改修工事特記仕様書による。

1.1表 鉄筋の種類及び継手

種類	種別	径
鉄筋の種類	SD 295	※D16以下
	SD 345	※D19以上
鉄筋の継手	重ね継手	下記以外
	ガス圧接	※D19以上、D29以下の柱、梁主筋
	機械式継手	※図示による。

1.3 コンクリートの仕様

コンクリートの仕様は、別紙建築工事特記仕様書又は建築改修工事特記仕様書による。

1.2表 コンクリートの仕様

分類	コンクリート種別	設計基準強度(N/mm ²)	スラブ厚(cm)	セメントの種類
鉄筋コンクリート	地上	※24 ○21	※18	※普通ポルトランドセメント
	地下 基礎、基礎梁	※24	※15	※普通ポルトランドセメント
無筋コンクリート	※普通コンクリート	※18	※15	※普通ポルトランドセメント

注1:無筋コンクリートには捨てコンクリートを含む。

1.4 砕石及び捨てコンクリート

砕石及び捨てコンクリートの厚さは、特記がなければ1.3表による。

1.3表 砕石及び捨てコンクリートの仕様

種別	厚さ(mm)
砂利または砕石	※ 60
捨てコンクリート	※ 50

2 共通事項

2.1 記号及び符号

設計図中で使用する記号及び符号は、2.1表及び2.2表を標準とする。

2.1表 鉄筋の断面表示

径	D10	D13	D16	D19	D22	D25	D29	D32
記号	●	×	⊙	●	○	⊙	⊗	⊙

2.2表 一般凡例

記号	内容	※印の説明及び注意事項
F※	フーチング断面種別	※ 番号
※1C※2	柱断面種別	※1 階数 ※2 その階の番号
※1G※2	大梁断面種別	※1 階数、地中大梁はFとする ※2 その階の番号 X方向1, 2, 3---- Y方向A, B, C----
CG※	片持大梁断面種別	※ 番号、階別区分はしない
※1B※2	小梁断面種別	※1 地中小梁のみFとする。 ※2 階別区分はしない 地中小梁を除く
CB※	片持小梁断面種別	※ 番号、階別区分はしない
※1W※2	壁配筋種別	※1 E:耐震壁、K:階段壁 D:土圧、水圧を受ける壁 ※2 その階の番号 ※3 階別区分はしない 壁厚(cm)
※1S※2※3	床版配筋種別	※1 片持床版のみCとする ※2 床版厚(cm) ※3 配筋種別(英大文字) 階別区分はしない
※1K※2	階段の配筋種別	※1 A:片持床版形 B:二辺固定床版形 ※2 配筋種別(数字) 階別区分はしない
CB※	コンクリートブロック壁	※ 壁厚(cm)
////	打ち増し範囲	
////	梁・床版の上がり下がり	一般には基準FLよりの+、-に 応じた凡例により表示
(※)	床用積載荷重	積載荷重の値(kN/m ²)
STP	あばら筋、スターラップ	梁、基礎梁、小梁
HOOP	帯筋、帯鉄筋、フープ	柱
SHOOP	スパイラル筋、らせん筋	柱
幅止筋	幅止め筋	柱、梁、壁
組立筋	組立て筋	床版、底板

2.2 一般注意事項

- (1)設計図は監督職員の承諾を得なければ変更してはならない。
 変更の必要を生じた場合は、監督職員と協議すること。

3 鉄筋の折曲げ加工

鉄筋の折曲げ加工は、3.1表を標準とする。

- (1)Dは、折曲げ内法直径を示す。
 (2)dは、鉄筋直径(呼び名)を示す。

3.1表 鉄筋の折曲げ形状及び寸法(末端部)

曲げ 角度	折曲げ図	折曲げ内法直径(D)		使用箇所
		SD295 SD345	D19 ~D38	
180°		D16 以下	3d以上	柱、梁の主筋 抗基礎のベース筋 D16以上の鉄筋
135°		D16 以下	3d以上	D13以下の鉄筋 あばら筋、帯筋、 スパイラル筋
90°		D16 以下	3d以上	T形及びL形の梁の あばら筋
135° 90°		D16 以下	3d以上	90° 幅止め筋

- (注)1. 片持スラブ先端、壁筋の自由端側の先端で90° フック又は135° フックを用いる場合は、余長を4d以上とする。
 2. 90° 未満の折曲げの内法直径は図面による。

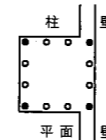
4 異形鉄筋の末端部

4.1 フックを設ける位置

異形鉄筋の末端部には、4.1表によりフックを設ける。

4.1表 フックを設ける位置

部位	継手方式		備考
	重ね継手	圧接継手	
柱	四隅の主筋	1)最上階の柱頭部	4.1図の●印 8.1図参照
	上下階の柱断面が異なる場合	1)下階の柱主筋を引き通すことができない柱頭部	4.1図の●印 8.2図参照
	帯筋(HOOP)	1)末端部 2)継手部	9.1図参照
梁	あばら筋(STP)	1)末端部 2)継手部	11.1図参照
抗基礎	独立フーチング基礎の底盤筋	1)末端部 2)継手部	20.1図参照
煙突の鉄筋	1)末端部 2)継手部	1)末端部	壁の一部となる場合を含む
幅止め筋	—	—	3.1表参照

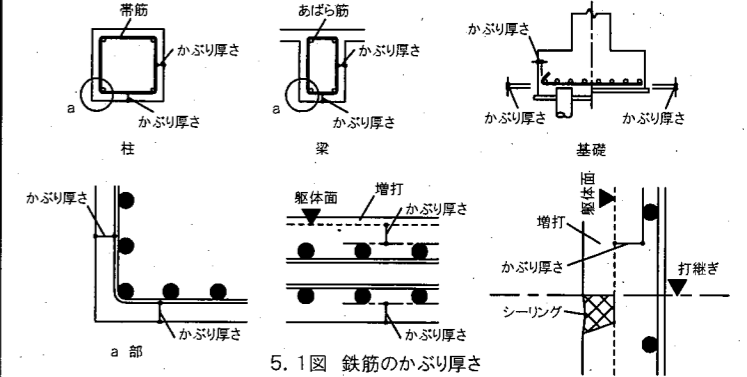


4.1図 異形鉄筋の末端部

5 鉄筋のかぶり及び間隔

5.1 かぶり厚さ

かぶり厚さとは、一番外側の鉄筋(幅止め筋、組立筋を除く)の外側から躯体面までの距離(5.1図)をいう。
 鉄筋組立後のかぶり厚さは、最小かぶり厚さ以上を確保し、最小かぶり厚さに許容施工誤差10mmを加えた厚さ以内に納めるものとする。



5.1図 鉄筋のかぶり厚さ

5.2 最小かぶり厚さ

- 最小かぶり厚さは、5.1表による。
 (1)床版、梁、基礎及び擁壁で、直接土に接する部分のかぶり厚さには、捨てコンクリートの厚さを含めない。
 (2)柱及び梁の主筋にD29以上を使用する場合は、主筋のかぶり厚さを径の1.5倍以上として最小かぶり厚さを定める。
 (3)溶接金網にも適用する。

5.1表 鉄筋の最小かぶり厚さ(mm)

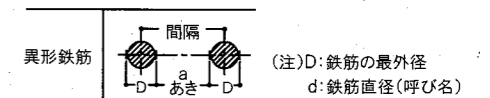
構造部分の種類	塩害区分	※ 通常の施工の場合		○塩害対策を必要とする場合
		一般	土、水に接する部分	煙突等高熱を受ける部分
一般	床、耐力壁以外の壁	30	40	40
	柱、梁、耐力壁	40	50	50
	底板	40	50	50
土、水に接する部分	柱、梁、床、壁	40	60	70
	底板、基礎	60	70	70
	煙突等高熱を受ける部分	60	70	70

1:打継目地部分は目地底より最小かぶり厚さを確保する。
 2:抗基礎の場合の最小かぶり厚さは、抗天端からとし、「21 抗基礎の補強」を参照。
 3:仕上なしの場合を標準とする。

5.3 鉄筋相互のあき及び間隔

鉄筋相互のあきは、下記の最大値のもの以上とする。ただし、機械式継手及び溶接継手の場合は図面による。

- (1)粗骨材の最大寸法の1.25倍
 (2)最小のあき25mm
 (3)隣り合う鉄筋の平均径(呼び名の数値)の1.5倍



5.2図 鉄筋相互のあき及び間隔

5.2表 鉄筋径と鉄筋間隔の関係一覧

鉄筋径(mm)	鉄筋径	鉄筋相互のあき:a			最小鉄筋芯間隔 a+D
		(1)粗骨材径×1.25	(2)最小あき	(3)鉄筋径×1.5	
D10	11	32mm 粗骨材最大径 25mmの場合	25mm	15mm	43mm
D13	14			20mm	46mm
D16	18			24mm	50mm
D19	21			29mm	53mm
D22	25			33mm	58mm
D25	28			38mm	66mm
D29	33			44mm	77mm

横須賀市上下水道局

工 事 名 称 下町浄化センター電気棟
 耐震補強工事

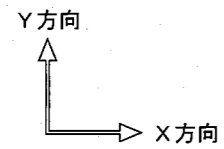
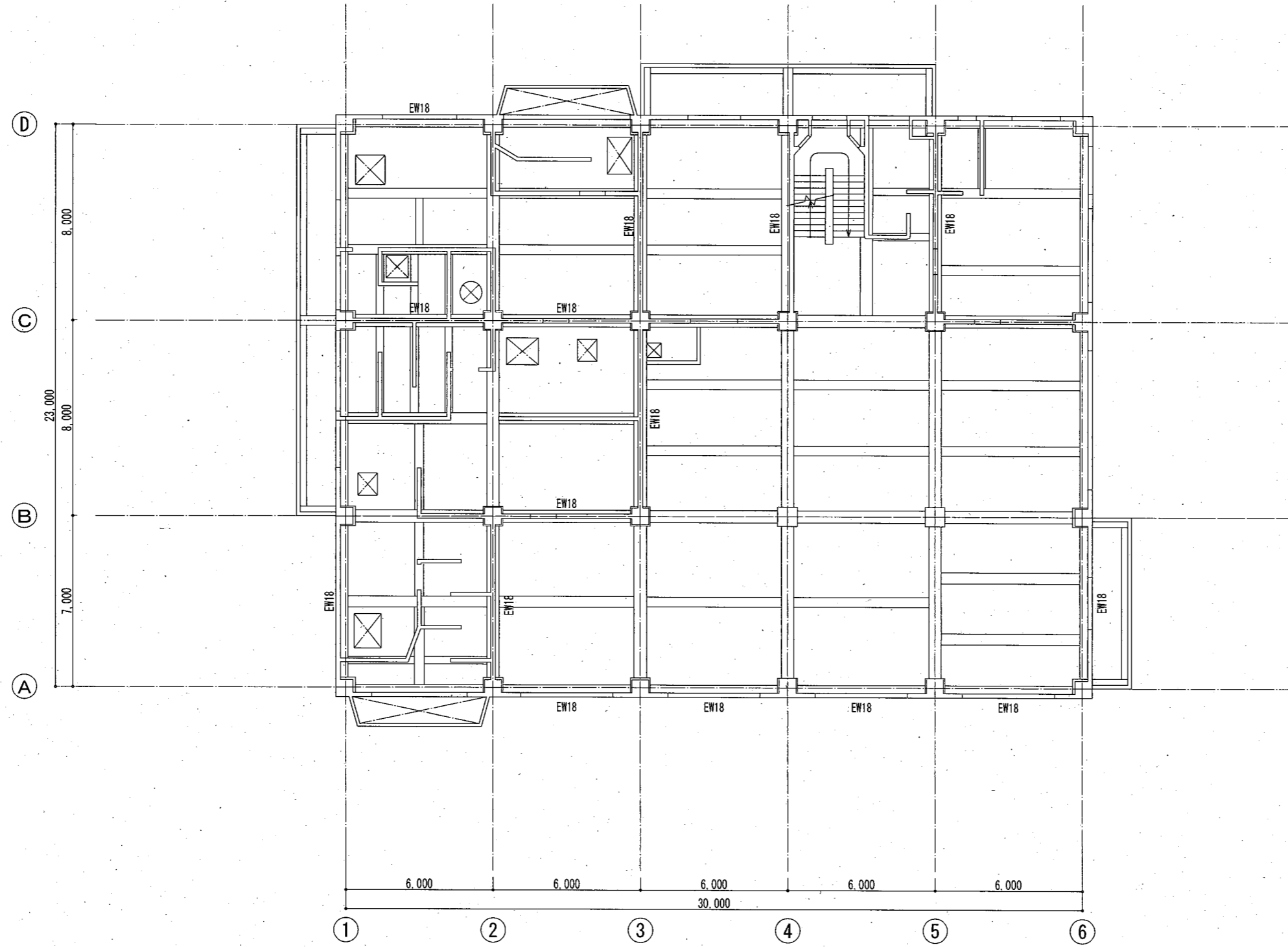
図 面 名 称 構造細目共通図(建築構造物)(1)

縮 尺 - 図 面 番 号 S-1

製 作 年 月 令和 5年 10月 原 図 尺 寸 A3

課 長 係 長 等 担 当 者 設 計 者

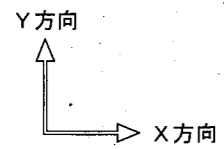
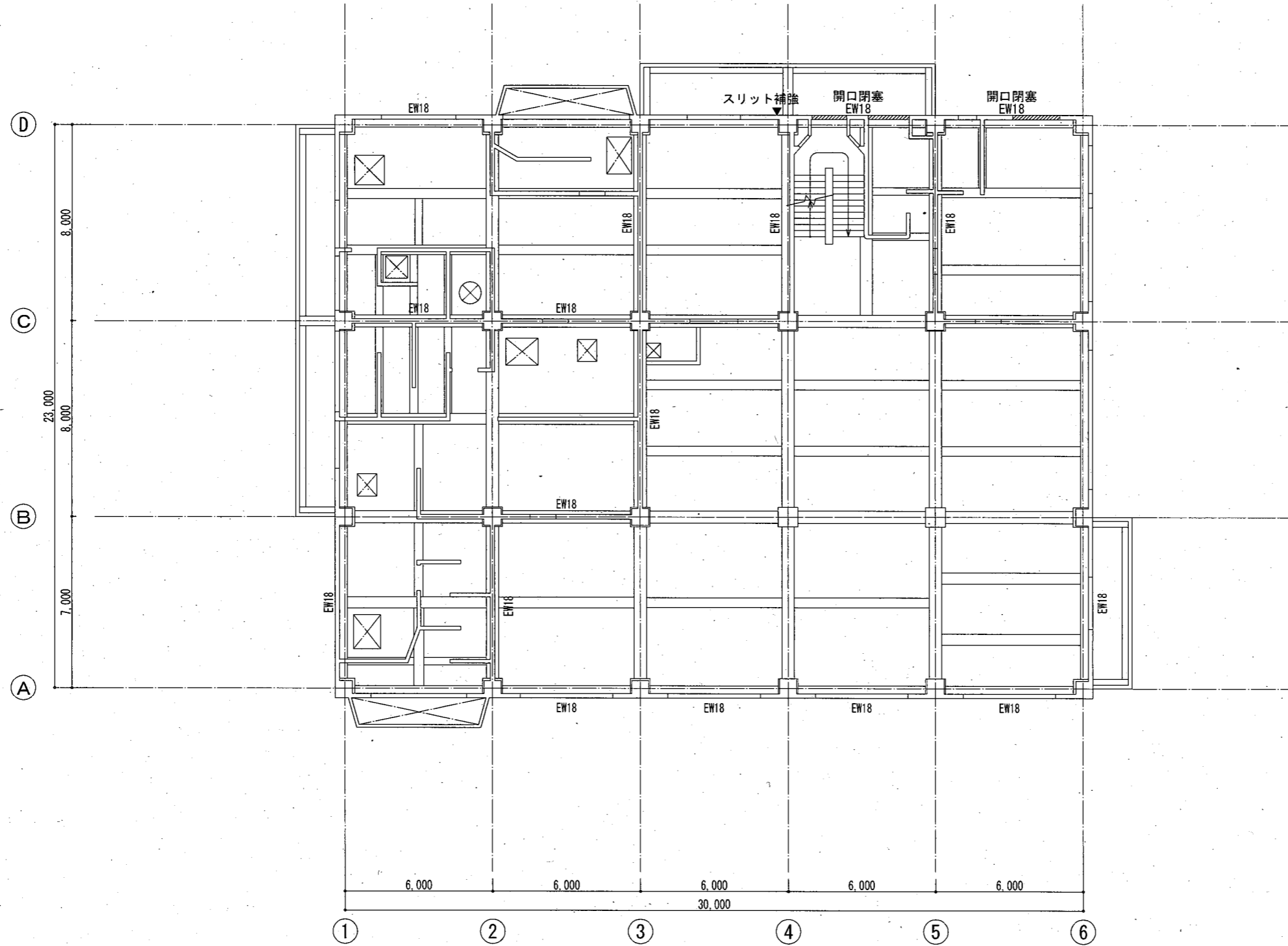
改修前



2階床梁伏図 1/200

横須賀市上下水道局				
工名	事称	下町浄化センター電気棟 耐震補強工事		
図名	面称	改修前2階床梁伏図		
縮尺	1/200	図番	面号	S-3
製年	作月	令和 5年 10月	原図 サイズ	A3
課長	係長等	担当者	設計者	

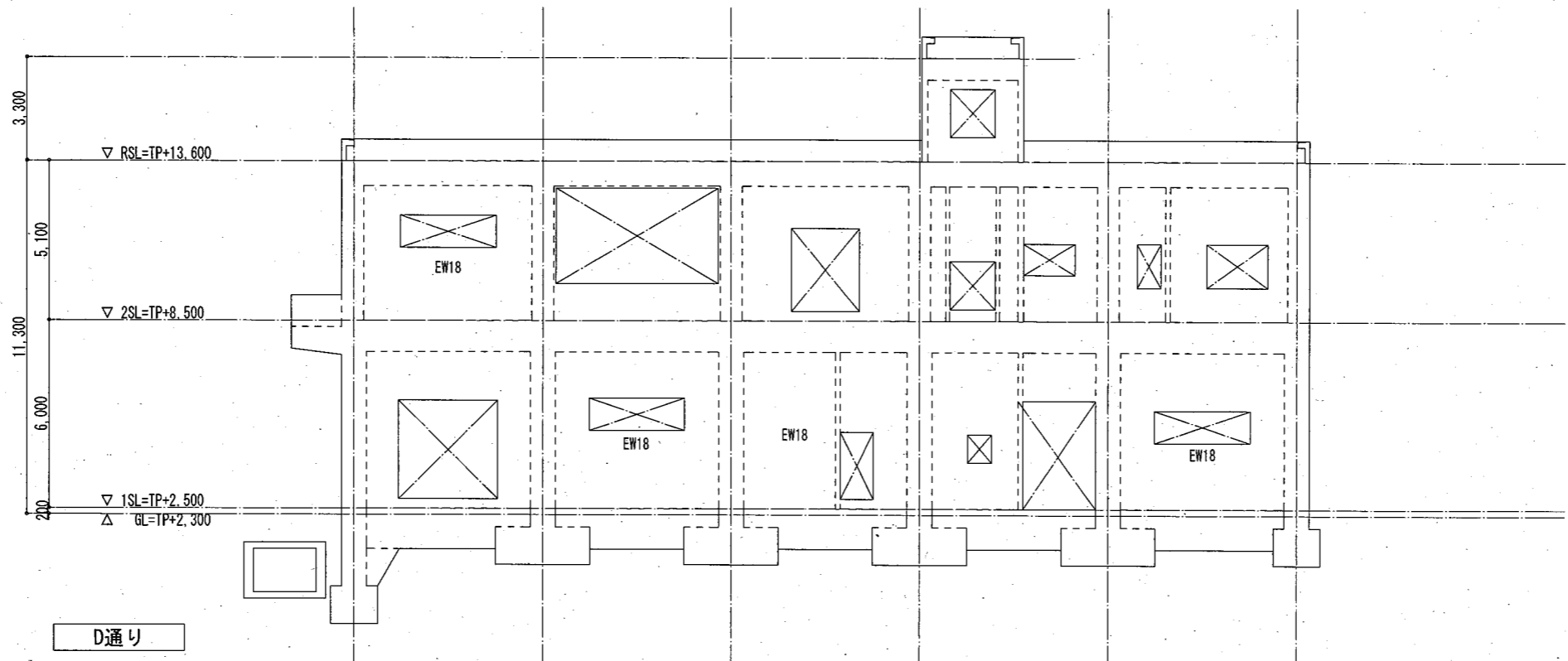
改修後



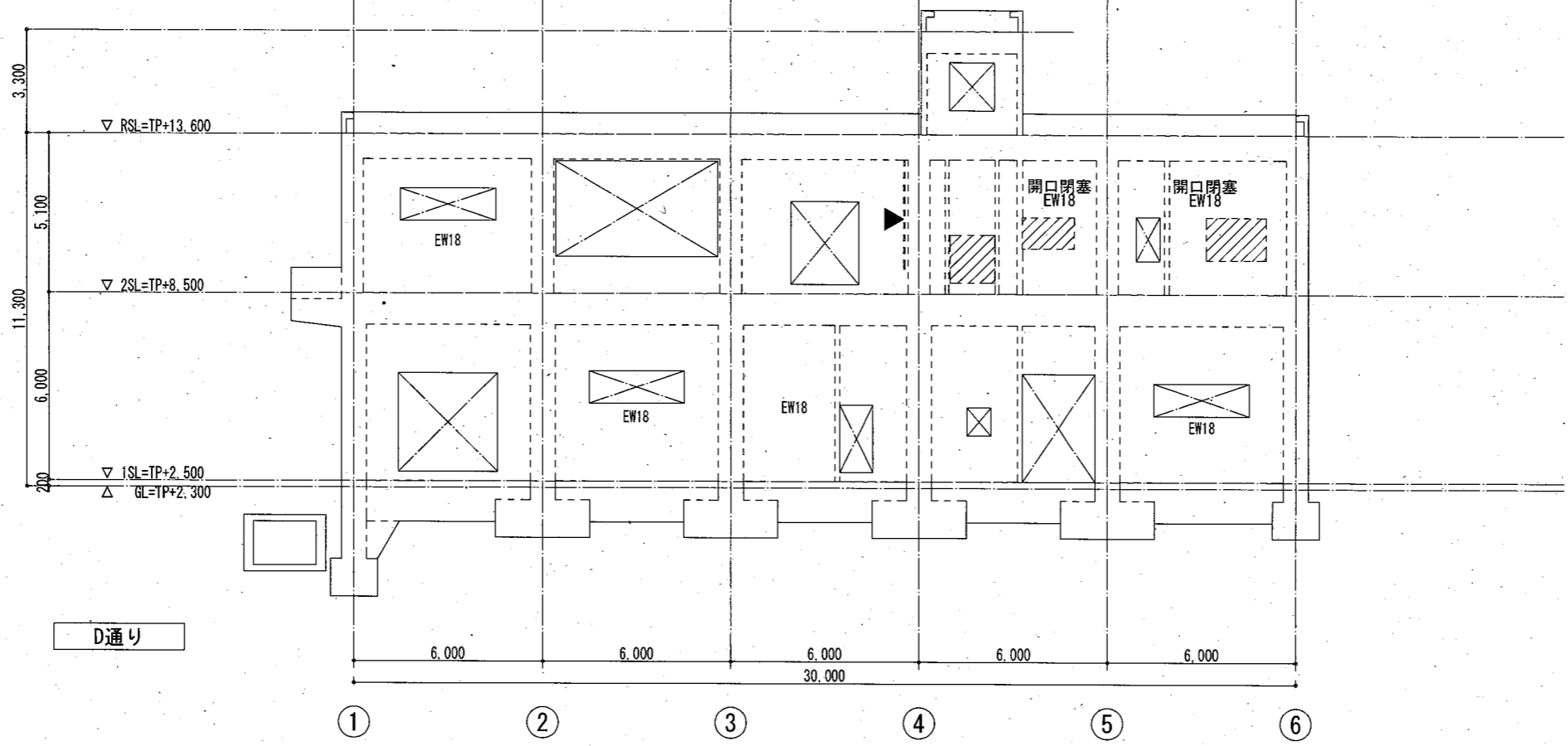
2階床梁伏図 1/200
 凡例 補強位置を示す
 スリット補強



横須賀市上下水道局			
工名	事称	下町浄化センター電気棟 耐震補強工事	
図名	面称	改修後2階床梁伏図	
縮尺	1/200	図番	S-4
製年	令和 5年10月	原図 サイズ	A3
課長	係長等	担当者	設計者

改修前



改修後



凡例
 補強位置を示す
 スリット補強

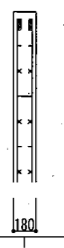
軸組図 1/200

横須賀市上下水道局				
工 事 名 称	下町浄化センター電気棟 耐震補強工事			
図 名	改修前・後軸組図			
縮 尺	1/200	図 番	面 号	S-5
製 作 年 月	令和 5年 10月	原 図	図 号	A3
課 長	係 長 等	担 当 者	設 計 者	

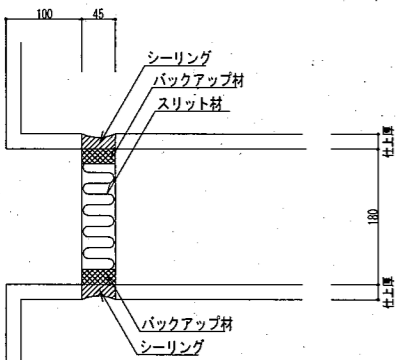
部材リスト

2F D通り 3~4間 スリット補強 W18

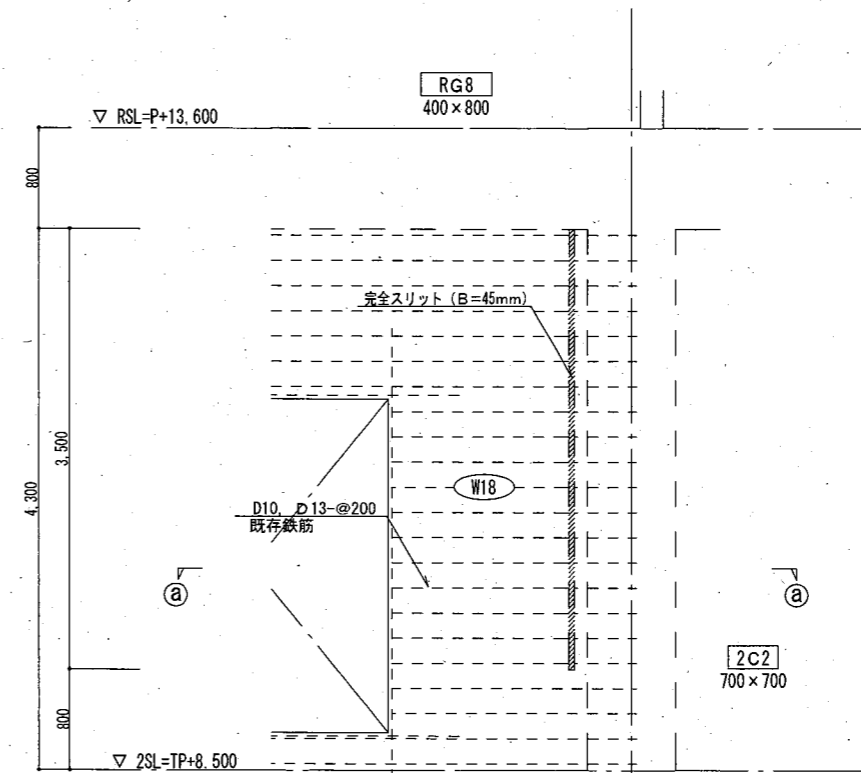
壁リスト

符号		EW18・W18 (既存壁)	
立断面			
		現況	開口閉塞
壁筋	縦配筋	D13-@200 ダブル	D13-@200 ダブル
	横配筋	D10, D13-@200 ダブル	D10, D13-@200 ダブル
開口補強筋	周囲補強筋	タテ 6-D16 ヨコ 6-D16	—
	斜め補強筋	6-D13	—
	接着系アンカー	—	D19-@200 シングル
接着系アンカー	開口補強筋	—	—
割裂防止筋	—	—	φ6 45M筋 φ6 #50(径80)
幅止め	—	D10-@1000	—

完全スリット補強共通事項



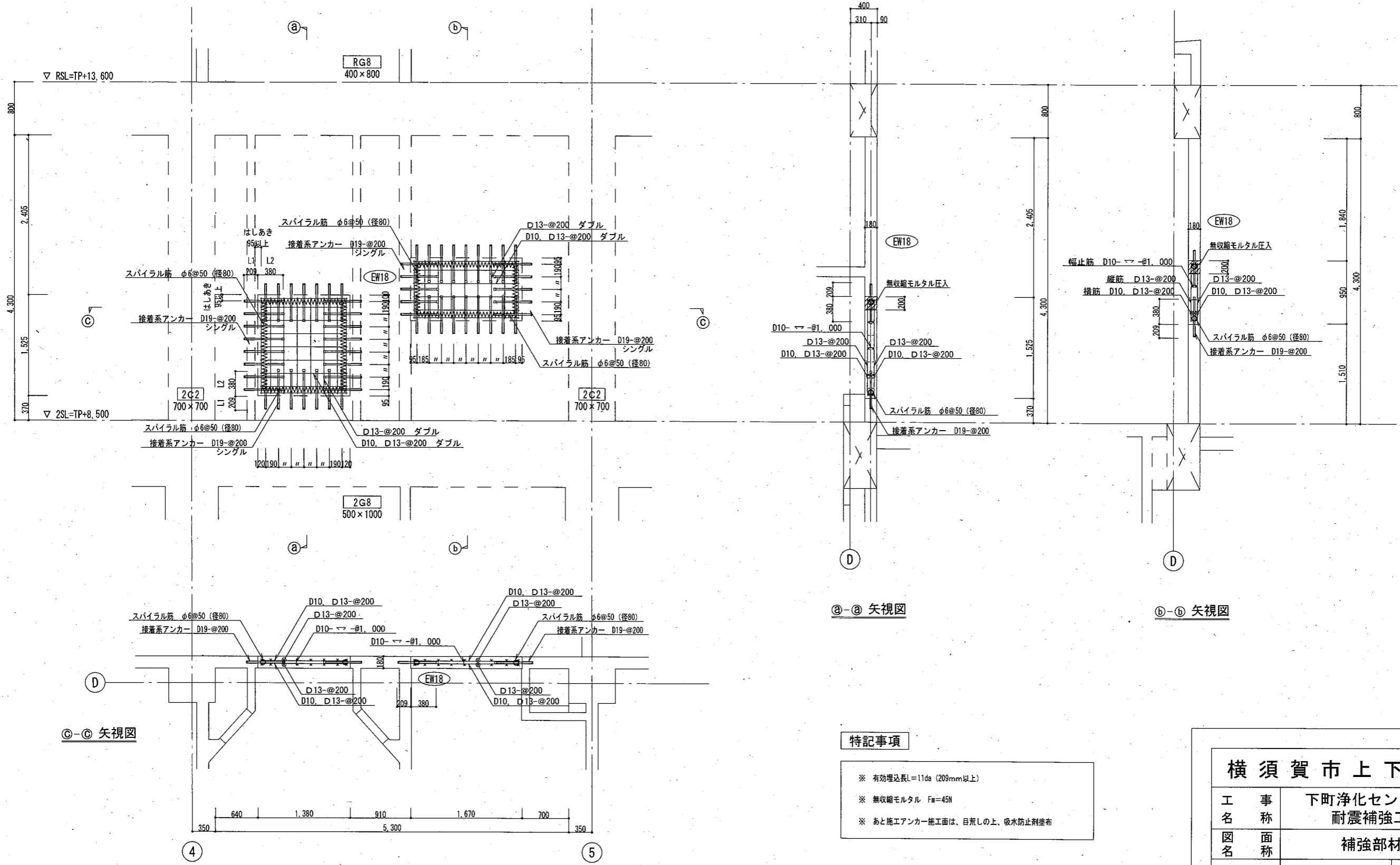
- ・サッシュ下などのカッターが入らない部分のコンクリートは手すりにより必ず除去する。
- ・既存鉄筋は切断する。
- ・スリットにかかる開口補強筋は切断する。
- ・切断した鉄筋の切断面には防錆処理を行う。
- ・鉄筋探査を行うことにより鉄筋の位置を把握し、又、埋設配管の有無を確認するため十分に調査を行うこと。
- ・コンクリート面からの有効長さを確認すること。
- ・ガス・給水・電気配管付近の施工については、手ハツリとし、管等に損傷を与えないよう十分注意する。



②-② 矢視図

横須賀市上下水道局

工 事 名 称	下町浄化センター電気棟 耐震補強工事		
図 面 名 称	補強部材図(1)		
縮 尺	1/60	図 番	S-6
製 作 年 月	令和 5年 10月	原 図 尺 寸	A3
課 長	係 長 等	担 当 者	設 計 者



③-③ 矢視図

⑥-⑥ 矢視図

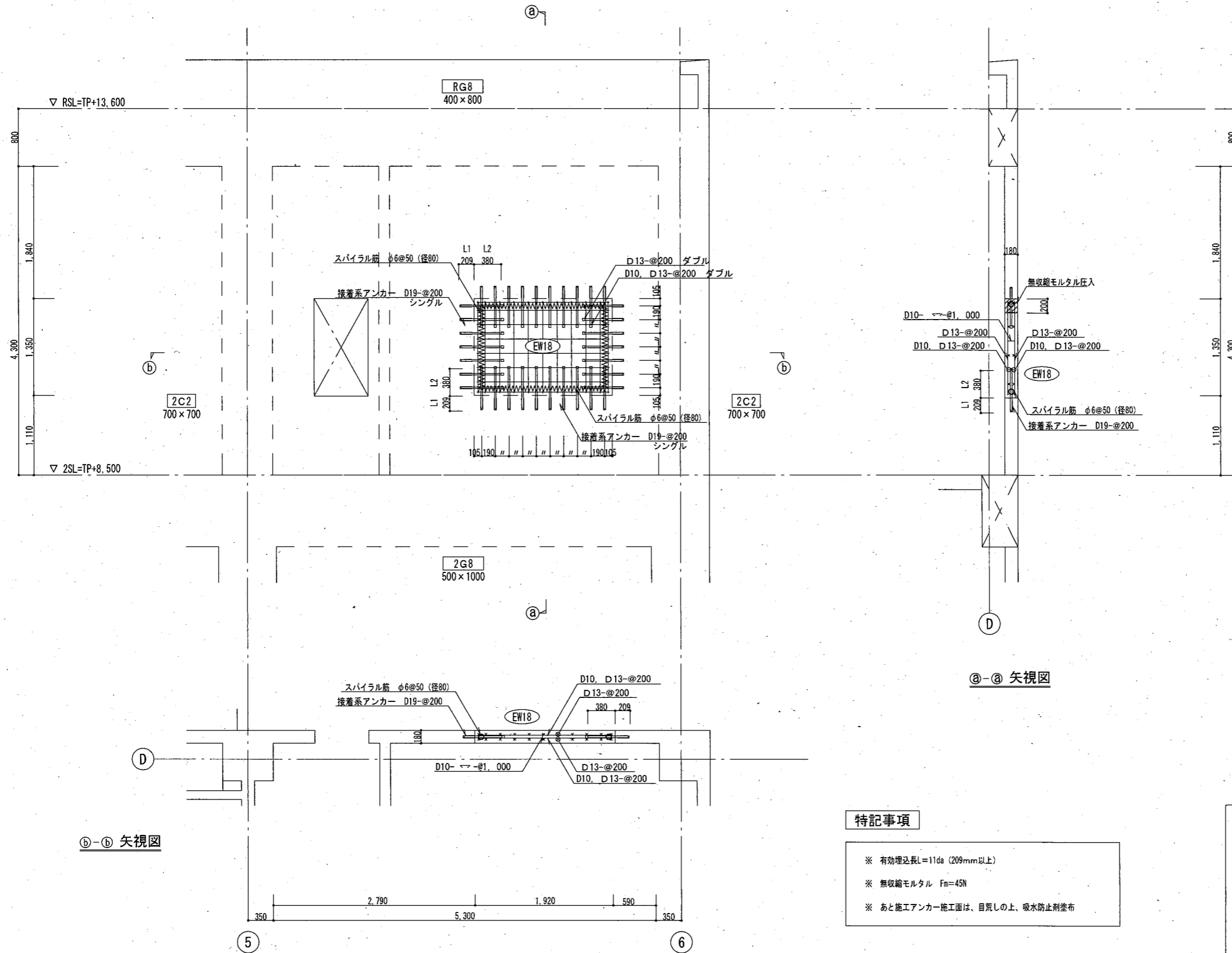
③-③ 矢視図

特記事項

- ※ 有効埋込長 $L=11d_s$ (209mm以上)
- ※ 無収縮モルタル $F_m=45N$
- ※ あと施工アンカー施工面は、目荒しの上、吸水防止剤塗布

横須賀市上下水道局

工 事 名 称	下町浄化センター電気棟 耐震補強工事		
図 名	補強部材図(2)		
縮 尺	1/60	図 番 号	S-7
製 作 年 月	令和 5年 10月	原 図 サイ ズ	A3
課 長	係 長 等	担 当 者	設 計 者



特記事項

- ※ 有効埋込長L=11da (209mm以上)
- ※ 無収縮モルタル Fm=45N
- ※ あと施工アンカー施工面は、目荒しの上、吸水防止剤塗布

横須賀市上下水道局

工 事 名 称	下町浄化センター電気棟 耐震補強工事		
図 名 面 称	補強部材図(3)		
縮 尺	1/60	図 番 号	S-8
製 作 年 月	令和 5年 10月	原 図 サイ ズ	A3
課 長	係 長 等	担 当 者	設 計 者